

令和2年度
事業報告書

社会福祉法人 緑友会

目 次

はじめに	3
法人本部	3-12
役員会（理事会・評議員会）	3-4
特記事項 要件	4-7
職員人事 入退職	7
職員配置状況	8
職員研修（1 外部研修）	9-10
職員研修（2 法人研修）	10
職員研修（3 特養内部研修）	10
職員研修（4 ヘルパー内部研修）	11
職員研修（5 研修委員会 総評報告）	11
防災訓練	12
小川ホーム	13
1. 入所者の状況	13-16
2. 処遇の状況	16-22
3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉	22-23
4. 各係	23-25
5. 栄養・給食関係	26-27
短期入所生活介護	28
小川ホームデイサービスセンター	29-31
1. 月別実績	30
2. 要介護度・年齢別利用者数	30
3. 移動方法別利用者数	31
4. 地域別利用者数	31
5. 行事	31
小川ホームホームヘルプサービス	32-34
小川ホーム介護計画センター	35-37
地域包括支援センター小川ホーム	38-47
1. 月別実績	44
2. 要介護度分類	44
3. 相談実績	45-47

はじめに

世界的な新型コロナウイルス感染症蔓延は一年以上にわたり、利用者にも職員にも感染者を出さないことと、利用者の生活を守るための予防対策をひたすら継続しておりますが、今だに収束しない状況が続いております。

感染症の国内拡大を受け、政府により緊急事態が宣言され、令和2年5月までは利用者やご家族の判断もあって、サービス利用量が縮小する事態となりました。感染拡大がみられた間は、各サービスの代表で感染症対策会議を毎週開催し、情報が交錯するなか対策を手探りで続けました。周辺地域感染状況把握、地域医療福祉機関や行政との連絡調整、職員の感染症教育と予防衛生の強化、入館制限の中でのご家族面会方法の検討と案内、品薄で高騰する物品材料の調達など、通常業務に加えて多くの時間を費やしました。気の緩みは禁物ですが、一年経過した今も感染者を出さず過ごすことができましたことは、携わるすべての方の努力によるものと感謝いたします。

現在、国内での予防接種は開始されているものの、自治体ごとに格差もあり、5月中旬までに法人内接種は完了していない状況です。感染症対策を主流とする中でも、利用者とのコミュニケーションを密に図り、新しい社会に適応しながら、飛沫予防・三密回避・常時換気を継続するという、相反条件を両立し努力する時代はしばらくは続くことでしょう。

利用する高齢者の方々の生命を守り、健康に留意しながら、潤いのある中身の濃い日々の生活を送っていただけるようにソフト、ハード面での点検改善を図ると同時にスタッフの健康と働く環境に配慮して行きます。

法人本部

○役員会

法人及び各事業運営についての諸議案が審議、決議された。

回数	開催日	出席状況	主な議題（概要）
98	理事会 令和2年 5月29日 (金曜日) 17時15分 ～	出席 理事6名 監事2名	第1号議案 前回理事会以降の 高額な出納に関する承認（案） 第2号議案 平成31年度 事業報告書（案） 第3号議案 平成31年度 計算書類（貸借対照表及び収支 計算書、及び付属明細書）及び財産目録（案） 第4号議案 本決算における積立金、積立資産、引当金に 関する案 ①施設設備整備等積立②職員処遇積立 ③徴収不能引当金 ④賞与引当金 第5号議案 平成31年度 社会福祉充実残額の確認案 第6号議案 平成31年度事業に関する監事監査報告及び 純資産証明額・資産登記の確認案 第7号議案 委員の任期満了に伴う選任案 福祉サービス等の苦情解決に関する第三者委員 第8号議案 定時評議員会開催（案）
17	評議員会 令和2年 6月19日 (金曜日) 15時00分 ～	出席 評議員7名 理事2名 監事2名	第1号議案 評議員会 議長選出 第2号議案 評議員会 議事録署名人選出 第3号議案 平成31年度 事業報告書（案） 第4号議案 平成31年度 計算書類（貸借対照表及び収支 計算書、及び付属明細書）及び財産目録（案） 第5号議案 本決算における積立金、積立資産、引当金に 関する案 ①施設設備整備等積立 ②職員処遇積立 ③徴収不能引当金 ④賞与引当金 第6号議案 平成31年度 社会福祉充実残額の確認案 第7号議案 平成31年度事業に関する監事監査報告 及び 純資産証明額・資産登記の確認案 第8号議案 委員の任期満了に伴う選任案 福祉サービス等の苦情解決に関する第三者委員

99	理事会 令和2年 10月2日 書面開催	出席 理事6名 監事2名 全員承諾	第1号議案 就業規則の改定
100	理事会 令和3年 1月29日 (金曜日) 16時00分 ～	出席 理事6名 監事2名 ハイブリット 開催	第1号議案 積立金取崩、補助金交付および高額な 出納について(承認案) 第2号議案 令和2年度 第1回補正予算(案) 第3号議案 令和3年度 業務委託 指名競争入札実施案 第4号議案 任期満了に伴う役員選任等
101	令和3年3月 26日 (金曜日) 17時15分 ～	出席 理事6名 監事2名 ハイブリット 開催	第1号議案 補助金交付および高額な出納について(承認案) 第2号議案 令和3年度事業計画(案) 第3号議案 令和3年度収支予算(案) 第4号議案 令和3年度 業務委託指名競争入札結果 第5号議案 入所定員変更と運営規程更新

○評議員

下記の評議員7名各氏は変わりなく引き続きお務めいただいている。令和2年6月19日に評議員会が開催され、平成31年度令和元年度の決算に関する議案の決議をして頂いている。

任期は平成29年4月1日から令和3年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までである。

評議員 赤木 真 出竿章雄 栗田正夫 澤田尚敏 田中信明 土川洋子
檜山則明

○理事・監事

下記の役員7名各氏は変わりなく引き続きお務めいただいている。

任期は令和2年6月18日から令和2年度事業に関する、令和3年6月に開催予定の定時評議員会の終結の時までである。

理事長 菅野徹夫
業務執行理事 小林美穂
理事 市東和子 関谷栄子 高木好男 増田英男
監事 基太村壽三郎 森杉美保

○新型コロナウイルス、インフルエンザ、肺炎球菌性肺炎の感染対策

令和2年4月7日～5月25日に、新型コロナウイルス感染症緊急事態宣言が出された。また小平市は地域外だったが令和3年4月12日～5月11日にまん延防止等重点措置が都内対象地区に出される事態となった。この感染症が増加傾向になった令和2年2月25日から、年間を通し感染症対策委員会を定期開催し、対策を実施している。予防に向け、マスクとシールドの着用、食席対策、会議・研修・実習受け入れの方法、毎朝昼の消毒活動、窓開け換気、飛沫接触予防策、三密回避、少人数送迎、全員検温記録、手洗消毒の徹底、外来者の入館制限、必須業者の入館記録など、多くの時間を費やし予防対策を行っている。

PCR検査は行政より指示され、職員全員陰性の結果を令和3年3月19日受けた。

ワクチンは市の確保数により左右され、福祉施設や高齢者優先の見通しは向うが、具体的接種日程見通しは年度内には決まっていない。

インフルエンザ感染予防については、新型コロナとのダブル感染リスクも懸念されるため、特養利用者と職員全員を対象に南台病院の下山院長にお願いし、11月25日、12月2日の2日間でワクチン接種を実施した。

肺炎球菌性肺炎については、昨年より入所時にワクチン接種歴を確認し、定期的接種の要請を利用者家族に行い実施している。

○労働の安全と衛生委員会

新型コロナ感染対策については、安全労働の観点から予防的衛生活動を検討し行っている。また有事に備えてN95 マスク、ガウン、靴カバー、キャップ、ゴーグル等々の備蓄を行っている。

緊急事態宣言発令時にアルコール、マスク、手袋が品薄で価格高騰したが、入手ルートを順次変え、都と市の衛生用品購入の補助金で支出負担を補いながら、必要数を確保してきている。

感染対策以外の案件は、ストレスチェック・休暇取得・健康診断・熱中症等対策・就業規則改定・職場環境清掃・職員処遇改善・密回避通勤・防火対策・緊急発電対策・職員介護力負担軽減・PC利用と情報管理・ハラスメント対策・介護職員の欠員補充策について検討し対策している。

○Web研修、会議

感染症対策強化策と職員研修を兼ねて、草花苑の職員の皆様と小川ホーム職員約20名とで、日常と有事の際の感染対策、地域医療・福祉との連携現況、衛生具と物品の備え置き況等について、レクチャーを受け情報交換を行った。

この度は新型コロナが主な議題となったが、新しい生活様式の遂行の上で、場所と人数を選ばず参加できるWeb会議や研修は、感染懸念が続く間の有効策として活用を行っていく。

○面会・面談

感染予防対策で入館制限をせざるを得ない中、年度当初より希望する家族には窓越し面会を実施した。年度後半には小川ホームに自由に動けるノートパソコンを配備し、希望するご家族と利用者をWebミーティング面会できるようにした。現在相談員等が予約とパソコン操作を行っているが、今後は社会ニーズも変わり、操作職員と面会枠を増やして対応する時代となることが予測される。

また居宅への訪問、来所相談は平時と有事の別に、パーテーション、顔シールド、消毒剤、防護対策用品を備えてきている。当施設の衛生の徹底度の問い合わせもあり、ご家族の中には対策の度合いでサービスを選ばれるケースも発生してきた。

○介護人材不足と外国人留学生、派遣職員の利用

介護人材不足は依然解消せず、緊急事態宣言等で失職者が多くなるなかでも、福祉の担い手は少ない。Web広告に対し年間10件余りの応募があるが、特に常勤職員は条件が合わず採用できないことが多い。このことから常勤職減員の間、派遣職員の一部利用をせざるを得ない状況にある。

一方非常勤職員の中には、当法人退職後ブランクを置いての復職者、大学生パート、実力ある高年職員、短時間就労希望者が増え、これらの職員に支えられ人員数が増えるも、付帯する業務も増加傾向になっている。

平成30年度から来日のベトナム人留学生一名は、介護専門学校を本年3月に卒業し、介護福祉士資格取得のうえ、4月より常勤就労が決定している。続く留学生の招聘も検討しているが、コロナ禍により中断している。

○補助金と用途

①東京都からの新型コロナウイルス感染拡大防止に向けた補助金を用い、次の活動を行った。

陰圧室二階1室三階3室の設置工事	感染予防のための送迎車ハイース1台購入
緊急事態宣言中の職員慰労金配布	感染予防対策のためのは人件費
デイ送迎車シエンタ購入の部分補助	Web面会用ノートPC2台購入
訪問用電動アシスト自転車2台購入	密回避のための事務用品購入
感染予防衛生消耗材購入	

②小平市からは利用者減員と感染予防策に対して補助を受け、次の活動を行った。

4～5月利用減員に対する収入補助 感染予防衛生消耗材購入

○IT委員会

コロナ禍での利用者、家族、職員、実習生、体験学習校、他事業所等との相互コミュニケーションを絶やさない方法を検討し、会議ソフトZoomを活用できるよう、ノートパソコン、無線LAN、カメラ、マイク等の最小限の通信周辺機器導入を、補助金を活用しながら行った。職員個々の努力もあり、様々なシーンで並行してWeb会議が可能となってきており、今後主流となったときに対応できるよう以降も整備を行って参りたい。

○小川ホーム利用者定員変更

コロナ禍でのショートステイは利用控えが続き、市中感染が解消するまで稼働増が見込めないことと、小川ホームは多数の入所待機者いる状態となっている。このことから小平市の推薦を得て福祉保健局に定員増減の申請を3月29日に行い、令和3年5月から小川ホーム定員77名、ショートステイ定員4名とすることが令和3年4月14日に認可された。

○地域連携・ボランティア・実習生委員

「地域連携・ボランティア・実習生委員」を中心に、地域ネットワークづくりに向け、前年同様おがワンフェスティバルを開催予定だったが、新型コロナの影響で中止となった。これに代えて、通風の良い屋上で地域の比較的健脚な高齢者にお集まりいただき、ボランティアの力を借りながら、体操等の活動を行った。

一般のボランティア活動は年度初頭より中止せざるを得ない中、入館しないで可能な買い物代行と、自宅でしていただける針仕事の支援を、秋口から再開していただいている。

学生の実習はWebミーティングも用いて実施し、利用者と画面を通して対話する形式となった。職場体験交流は学校の決定で中止となったが、独自に介護福祉の魅力を学生に対してWebミーティングで発信する機会を持った。

○介護保険改正

3年に一度の介護保険改正が令和3年度4月からとなることから、新制度の把握と加算を含むサービス提供の内容を、セクションごとに事業者会議を開催して検討し決定した。また、猶予期間はあるが、厚生労働省が開発した「科学的介護情報システム LIFE (Long-term care Information system For Evidence)」が導入され、これに追従しICT化を行うことを推進し、加算を取得していく必要があり、令和3年度以降の課題となっている。

○介護予防・日常生活支援総合事業

主にデイサービスセンター総合事業向けに、令和2年6月にマシン5種を導入し、パンフレット作製の上、当センターを利用していただく目的で地域に働きかけた。一年かけて利用増の傾向にはあったが、コロナ禍の社会的制限が断続する中で、地域のケアマネジャーが活発な訪問相談ができないこともあり、目標の新規利用者数に至ることができなかった。年度後半に内部ケアマネジャーと協力し、見学会を行い好評を受け新規開始もあったが、集団活動参加を心配する高齢者やその家族もあり、目標稼働数にはならなかった。感染対策を継続しながら、地域の対象者が安心して機能維持をする場の提供を今後も行って行く。

○人事評価制度の継続

一昨年に改定した人事制度を用い、職務の等級に合わせた目標チャレンジ・研修シートを用いて人事考課を継続実施している。特に中途採用職員の入職時の評価は、それまでの業務経験やスキルに十分配慮して行うことで、平等で適切な当初評価を行い、やりがいを引き出し永く勤務したいと思える施設づくりに取り組んでいる。技術研鑽のために研修参加を評価し考課しているが、令和2年度は殆どどの集会研修が中止となった。変わってWeb研修の頻度が多くなり、時と場所を選ばず研修できる時代となり、研修の在り方と考課を把握する仕組みづくりが今後の課題となる。

○福祉サービスの第三者評価の受審

令和2年11月10日から令和3年3月10日にかけて、委託先の一般財団法人 日本薬事法務学会と契約し、調査を行った。感染予防策を第一に考え、入所者への聴き取り調査は職員が代行し、実地調査は書類審査とWeb会議によって行う策をとった。調査結果は、介護サービス情報同様に東京都福祉サービス評価推進機構のホームページに掲載され公表されている。

○協力医療機関と嘱託医師

令和2年度は、協力医療機関として以下のとおり来訪により診療等を実施した。

南台病院 内科 下山克也医師	小川クリニック 内科 小川哲史医師
あきやま子どもクリニック 内科 後藤雄一医師	
小平仲町クリニック 精神科 伊藤敬雄医師	
島田療育センターはちおうじ 整形外科 菅野徹夫医師	
パール歯科 歯科 輪番担当医	南台病院 産業医 下山克也医師

法人職員人事（異動・昇格） 該当なし

職員入退職（常勤職員）

職 種	配置	入職者	日付	職 種	配置	退職者	日付
介護職員	特養	佐藤 歩未	R2.4.1	介護職員	特養	一條 裕	R2.5.31
介護職員	特養	武藤 綾	R2.6.3	介護職員	特養	板井 雅俊	R2.7.31
介護職員	特養	竹本 憲司	R2.7.1				
介護職員	特養	下野 実希	R2.10.1				
介護職員	特養	阿形 秀美	R3.1.4				
ケアマネジャー	計画	梶 祐子	R3.3.1				

職員配置状況

令和3年3月31日現在

職 種	介護老人福祉施設 (短期入所を含む)		通所介護		訪問介護	
	基準	定員	基準	定員	基準	定員
施設長	1	1 [内兼務1]				
事務員		2 (1) [内兼務1]				
看護職員	3	3 (3) [内兼務1]	1 (1)	(3) [内兼務1]		
相談員	1	1	1 (1)	4 (2) [内兼務 4 (2)]		
介護職員	24	21 (23)	6	3 (12) [内兼務 3 (2)]		
ヘルパー					9	2 (19)
介護支援専門員	1	[兼務4]				
管理栄養士	1	1				
医師	必要数	(4)				
精神科医師	(1)	(1)				
歯科医師(訪問)	(1)	(1)				
機能訓練指導員	1	1 [内兼務1] (1)	1	1 (1) [内兼務 (1)]		
ライフワーカー		(8)				
業務員		(4)				
警務員		(7)				
専従運転士				(3)		
計	32 (3)	30 (53) [兼務8]	9 (2)	8 (2) 1) [内兼務 8 (5)]	9	2 (19)

職 種	居宅介護支援		地域包括支援	
	基準	定員	基準	定員
事務員			(1)	1
看護職員			1 (1)	1 (1)
相談員			2	2
介護職員				
ヘルパー				
介護支援専門員	6	6 (2)	5 (3)	5 (3) [内兼務 1]
管理栄養士				
医師				
精神科医師				
機能訓練指導員				
業務員				
計	6	6 (2)	8 (5)	9 (4) [内兼務 1]

※ () は非常勤職員

※ () は非常勤職員

※基準は介護保険法に照らし、同時に当サービスの利用者数の現況を満たすだけの必要人員を表現している。

※計は単純に表を合計しているため、実人の計とは一致しない場合がある。

職員研修
(1) 外部研修

研修内容	研修主催者	研修者	研修日 (1 日目)	その他 (2 日目以降)
精神障害にも対応した地域包括ケアシステムを考える	小平市障害支援課	中野香美	R2. 7. 7	
令和元年度東京都主任介護支援専門員更新研修	東京都介護支援専門員研修協議会	永畑加代子	R2. 9. 23	全 8 日間
伝わる、動機づけるコミュニケーションの勘所	小平市地域包括支援センター中央センター	古川千鶴子 永畑加代子	R2. 10. 16	
令和 2 年度小平市ケアプラン指導研修 高めよう！ケアマネジャー相談援助力	小平市地域包括支援センター中央センター	大橋慧媛 平間亜矢子	R2. 10. 16	
介護報酬請求事務に関する研修会 (基礎編)	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB 配信)	内山亜矢子	R2. 11. 11	
今学びたい労務管理	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB 配信)	長嶋弘樹	R2. 11. 12	
本人らしさを支える自立(自律)支援に着目したアセスメント	小平市地域包括支援センター中央センター	古川千鶴子	R2. 11. 12	
今求められる高齢者の栄養管理	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB 配信)	住友満美子	R2. 11. 13	
介護技術に関する研修会	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB 配信)	池高真一	R2. 11. 13	
高齢者虐待防止研修	東京都福祉保健財団	高橋利枝	R2. 12. 14	
福祉ビジョン 21 世紀セミナー	全国社会福祉協議会 (WEB 配信)	小林美穂	R2. 12. 21	
通所サービス事業所様向け 60 分オンライン (Zoom) セミナー	株式会社ルネサンス (ZOOM 開催)	池高真一	R2. 12. 21	
新しい生活様式における福祉施設のあり方について～新型コロナウイルス感染症対策と対応～	全国老人福祉施設協議会 (WEB 配信)	小川ホーム職員	R3. 1. 13	
令和 2 年度認知症対応力向上研修 認知症の人と家族の心の理解と対応	小平市地域包括支援センター中央センター (オンライン)	古川千鶴子 加藤桂子	R3. 1. 15	
第 2 回 SARAYA 感染対策 Web セミナー【介護福祉施設編】	サラヤ株式会社	野島邦義	R3. 1. 15	
リモート福祉用具勉強会	サカイヘルスケア・モルテン	佐藤実	R3. 1. 21	
介護報酬請求事務に関する研修会(応用編)	東京都高齢者福祉施設協議会 (WEB 配信)	長嶋弘樹 内山亜矢子	R3. 1. 22	
ソーシャルワーク研修会 in zoom ～みんなが笑顔で前向きになれる研修～	東京都高齢者福祉施設協議会 (ZOOM 開催)	高橋利枝	R3. 1. 27	
人生最後の 1 ヶ月の変化とケア～がん編～	小平市在宅医療介護連携推進協議会 (ZOOM 開催)	佐藤実	R3. 1. 28	
福祉施設に求められるリーダーシップのあり方	東京都社会福祉協議会 (WEB 配信)	野島邦義	R3. 2. 1	
多問題ケースの家族支援について考える ～精神疾患の家族を持つ高齢者のために役立つケアマネジメントとは～	小平市地域包括支援センターけやきの郷	大橋慧媛 古川千鶴子 山岸栄子	R3. 2. 2	

生活相談員リスクマネジメント研修 ～高齢者福祉施設の新型コロナウイルス対策～	東京都高齢者福祉施設協議会（ZOOM開催）	高橋利枝	R3. 2. 3	
小平市ケアプラン研修 在宅療養を支える服薬支援 ～本人らしい支援に繋げるために～	小平市	平間亜矢子	R3. 2. 24	
令和2年度ショートステイWEB情報交換会	東京都高齢者福祉施設協議会（ZOOM開催）	高橋利枝	R3. 2. 25	
令和2年度栄養管理講習会(第9回)	東京都多摩小平保健所	住友満美子	R3. 3. 16	
人生最後の1ヶ月の変化とケア～慢性疾患編～	小平市在宅医療介護連携推進協議会（ZOOM開催）	佐藤実	R3. 3. 19	

(2) 法人研修

研修内容	講師	受講者	研修日
草花苑・小川ホーム相互 Web 研修 感染症発生時の対策 各施設の感染予防対策意見交換 ゾーニング 有事の職員確保と宿泊	草花苑職員	主任以上	R3. 3. 19

(3) 特養内部研修

研修内容	講師	受講者数	研修日
利用者急変時の対応（緊急対応）	野島邦義	18名	R2. 4. 18～全4日間
入浴方法について（個浴） （入浴研修）	相原和典	21名	R2. 4. 13～全3日間
新型コロナウイルス感染症の対応（食中毒含） （感染症研修：1回目）	杉本百合子	20名	R2. 9. 5, 7, 10
看取りケアはどんなケアをするの？ （看取り研修：1回目、2回目）	杉本百合子	20名	R2. 5. 25、6. 4
喀痰吸引・経管栄養研修	矢村恵美	20名	R2. 7. 19
事故に対するアセスメント力を養う （介護事故予防：1回目）	武藤光仁 村山大輔	32名	R2. 9. 29、30
声掛け・言葉の選択による利用者へ影響 （身体拘束廃止：1回目）	山田芽美 鎌田英子	40名	R2. 8. 27、31
心の声に耳を傾けよう ～傾聴力が利用者の生活をも左右する～（認知症研修）	野島邦義	21名	R2. 10. 5～全4日間
新型コロナウイルスとノロウイルス・インフルエンザの違いと対応方法 （感染症研修：2回目）	杉本百合子	14名	R2. 11. 4、18
標準予防策と防護服の使用方法（演習） （感染症研修：3回目）	杉本百合子	13名	R2. 12. 23、
危険に対する気付きと対応方法 （介護事故予防：2回目）	武藤光仁 村山大輔	28名	R3. 2. 28～全3日間
その人らしさを大切にするケア	高橋利枝	20名	R3. 8～全4日間
褥瘡とは（褥瘡予防研修）	杉本百合子	12名	R3. 3. 15～全3日間
身体拘束に対する考え方 （身体拘束廃止：2回目）	田倉巳幸 齋藤美佐	40名	R3. 3. 25、31

(4) ヘルパー内部研修

※サービス提供責任者が講師を務め、以下の研修会を開催している。

※法人研修・外部研修は前記(1)(2)の表に記載しています。

※研修未受講者に対するフォローアップ研修はOJTで個別に行っている。

年	令和2年			
	6	8	9	11
月				
日	1	26	11	20
研修テーマ	感染症 DVD	防護服の 着用方法	感染症 DVD	感染症 DVD
講師		松田弥生 横山真希		
柏木あけみ			○	
高原好子			○	
松野智子			○	
斉藤与志子			○	
上條悦子			○	
豊嶋尚美			○	
増田いづみ			○	
坂田しのぶ			○	
鈴木今日子			○	
廣田公雄			○	
森本由紀子			○	
加藤満子			○	
王 影欣			○	
福間邦子			○	
丸山安三			○	
小川真理子			○	
夏山照美 (生活サポーター)			○	
岩淵けい子 (生活サポーター)			○	
雨宮仁 (生活サポーター)			○	
松井清美	○	○	○	○
羽根ルミ子	○	○	○	○

令和3年度
研修委員会 総評報告

《総括》

研修課題の中で令和2年度は、優先的に取り組むべき研修課題の中で、2つの課題について取り組む予定としていたが新型コロナウイルス感染拡大の為、未実施に終わった。

- ① 認知症への理解や対応する技術の不足がある。
 - 不適切ケア(虐待等)に対する事例について学び、気付きや理解を深める。
 - 認知症疾患の特徴や最新の動向について学び対応力の向上を図る。また、利用者の尊厳を守る事の大切さを再確認できるようにする。
- ② 特養・在宅共に、中重度の利用者の受け入れが多くなる中で職員の心身の負担が大きくなり体の痛みが出る事も多い。又不規則な勤務形態により体調を崩す事もある。
 - セルフケアや栄養について学び心身の健康を心がけることができるようにする。

年度の初めから、新型コロナウイルス感染症の蔓延が猛威を振るい、施設内の交流はもとより、感染対策の面から施設内に部外者が入館することさえも制限する対策をとっていた為に思うような研修は行えなかった。①の課題については、東京都の登録講師派遣事業の研修を申し込み、講師の先生と何度も打ち合わせを繰り返し、グループワーク中心の内容から、

座学中心であれば、実施出来そうなのか又、オンライン（ZOOM）での開催等も検討していたが、時期を決めては延期を繰り返すような形となってしまう、最終的には、東京都の方から、中止との指示が入り未実施となってしまった。②の課題は、職員の健康増進に向けて、取り組みたい課題であったが、人流を防ぐ、又感染予防の観点から未実施となってしまった。

一方、新型コロナウイルス感染症対策の面から、新型コロナウイルス感染症の学習（新型コロナウイルスの基礎知識・手指消毒や物品消毒の方法・ガウンテクニック・衛生用品の着脱方法等）を中心に取り組む形とした。感染症対策委員会からの情報発信や厚生労働省や東京都から、出されている、感染対策の学習動画を切り取り、DVDを作成し、各部署に配布し各職員が研修に取り組みやすいようにした。在宅部門においては、特に訪問しなければならない部署の職員には、看護師による防護服着脱研修を実施して、緊急事態に備えるようにしてきた。

年度の後半には、オンライン研修も少しずつ増えてきており、各部署でのOJT・OFF-JTとしての取り組みを行った。

今後も、感染状況の動向をみながらにはなるが、各部署でのOJT・OFF-JTを基本としつつ、オンライン研修も取り入れながら、各部署での共通課題に対し取組む事が出来る様にしていきたい。

（6）防災訓練 感染拡大防止のため密、接触を避けて実施

実施日	訓練内容	参加者
令和2年5月26日 10:00-10:30	BCP 感染症発生時訓練 備品調達配備	施設職員 10名
令和2年8月27日 12:00-13:00	BCP 断水発生時訓練	施設職員 10名
令和2年10月20日 14:30~15:30	停電想定訓練(震災・台風災害) 災害時の優先機器材への給電訓練	施設職員 5名
令和2年10月21日 10:00~16:00	災害停電時の発電機使用給電 飲料補給 補助照明 停電時の過ごし方の訓練	施設職員 10名
令和2年11月17日 14:30~15:45	夜間想定総合訓練 ①小川ホーム 夜勤時間帯地震発生・出火想定 シェイクアウト・通報・放送・消火設備取扱・ 避難誘導・ライフタワー降下・救護・放水の訓練 危険回避のために災害講習 ②デイサービス 日中地震想定 シェイクアウト・発災時行動・震災避難の訓練 家庭の防災と防火講習	施設職員 約25名 利用者 約40名
令和3年2月16日 14:30-15:30	BCP 感染症発生時訓練 感染予防パーテーションゾーニング	施設職員 10名
令和3年3月10日 11:00-12:00	避難所開設訓練 避難掲示 避難者名簿作成 避難場所誘導 食料配布	施設職員 10名 利用者 20名
令和3年3月22日 14時30分から 15時30分まで	夜間想定総合訓練 ①小川ホーム 夜勤時間帯地震発生・出火想定 シェイクアウト・通報・放送・防災設備取扱・ 避難誘導・担架救護・救出方法・放水 ②デイサービス 日中地震想定 シェイクアウト・災害護身・家庭の防災と防火	施設職員 約25名 利用者 約40名
令和3年3月24日 11:00-12:00	避難所開設訓練 避難掲示 避難者名簿作成 避難場所誘導 食料配布	施設職員 10名 利用者 20名
令和3年3月25日 13:00-14:00	BCP 感染症発生時訓練 陰圧室装置 操作訓練	施設職員 10名

指定介護老人福祉施設 小川ホーム 事業報告

運営概況

コロナの発生は、一年以上経過した現在においても終息には至っておらず、感染症に付随する国や自治体からの要請、商慣行の変革、労働環境や移動の物理的制約など様々な感染防止策が発令される中、施設活動との両立に苦慮し、事業計画通りの活動はできず、概して目標達成することはできなかった。

しかし感染症管理体制の強化という面においては、多くの施設が感染の危機に直面している中、幸いにも誰一人感染者を出すこともなく、ウイルスという見えない相手から利用者の“命”を守ることができたのは、職員一人ひとりが強い緊張感と責任感を持ち、感染防止策を徹底してきた成果とも言える。勿論、この成果は我々の力だけで達成したのではなく、ご家族の皆様のご助力の賜物と深く感謝している。

また当施設では、ウィズコロナ時代に合わせた取り組みとして、施設内にウイルスを持ち込まないことを徹底し、職員には出勤前と始業時に検温と記録、感冒症状者（世帯単位）の出勤規制の導入や職場における「3密」の回避など、様々な感染予防策を講じてきた。更に利用者やご家族様の皆様におかれましても、面会や外出など地域活動への参加を制限させて頂いた他、利用者の日常生活の基盤の一部や事務手続きについてもオンライン化・デジタル化に移行するなど、非対面型のサービス体制にご理解を頂きながら、新しい生活様式に向けた取り組みを行うことができた。この他、利用者の健康管理の面で言えば、今まで以上に多職種間の連携を強化した結果、前年度より外来受診数と入院者数は減少（約28%）することができたが、その一方で新たな日常の形は“生活”という人が生きるために必要な活動において、たくさんの弊害をもたらした。

事実、面会や外出など地域活動への参加の制限は、オンラインや飛沫防止シート越しで実施したとしても、利用者やご家族の皆様が望むような形ではなく、触れ合う機会が減少したことからのストレスから、生活意欲が低下する利用者もいた。そのため福祉職が持つ利用者の価値観や感情などの、気持ちに対する心理的な支援に重きをおき、利用者の心のケアにも努めた。また施設という限られた空間の中では、利用者同士「3密」を避けて行動することは難しく、特に食事や入浴など生活に欠かせない行為においては、人の手が必要な利用者も多く利用しているため、常に職員が意識的に利用者間の距離を保つよう考えながら支援にあたった。更には利用者個々にマスクを提供し、着用を促すも難しい面があった。しかし過度な制限は利用者の生活の質の低下になるため、日常生活の各場面別において、それら両立する新たな打開策を見出すことができないことも多く存在した。

人々の生活様式まで変えざる得ない、いわゆるコロナ禍においても我々の職種は利用者の生活維持に欠かせない職業であり、簡単にストップする訳にはいかない。日本では今、ワクチンが事態の終息への希望の一手として期待が高まっているが、利用者の思いに寄り添い、その人の人生に向き合い、かかわり、ときにパートナーとなり共に歩む尊い支援することには変わりはありません。次年度も引き続き強い使命感をもって、利用者の生活を支えられるよう取り組んでいきたい。

最後にコロナ禍の中、多くの方々から頂戴した温かいお心使いに感謝申し上げ、今年度の事業報告とする。

1. 入所者の状況

(1) 月別入所実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
在籍数	72	74	73	74	74	73	76
延べ人数	1,940	2,073	2,104	2,161	2,089	2,069	2,227
1日当り	64.7	66.9	70.1	69.7	67.4	69.0	71.8
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R1年度
件数	76	74	74	74	74	888	879
延べ人数	2,145	2,301	2,220	2,043	2,043	25,624	24,856
1日当り	71.5	74.2	71.6	73.0	72.6	70.2	67.9

※ 以下統計資料は令和3年3月31日現在の入所者を対象

(1) 介護保険者（市・区）別入所者

	男性	女性	計
小平市	13	55	68
他市区	1	6	7
計	14	61	75

(2) 生活福祉受給状況

種別	男性	女性	計
全面生活保護受給	0	0	0
医療費単独給付受給	0	5	3
計	0	5	3

(3) 入所者の要介護度等の状況

a. 要介護度の内訳

	現入所者	
	男性	女性
要介護1	1	1
要介護2	0	3
要介護3	4	25
要介護4	4	20
要介護5	5	12
計	14	61
介護度平均	3.85	3.68
総員介護度平均	3.72	
介護度4・5の占める割合	56%	

b. 障害高齢者の日常生活自立度

障害自立度	状況	男性	女性	計
J1	生活自立	0	0	0
J2		0	0	0
A1	準寝たきり	2	9	11
A2		1	4	5
B1	寝たきり	5	23	28
B2		4	16	20
C1		1	2	3
C2		1	7	8
計		14	61	75

c. 認知症高齢者の日常生活自立度

認知症自立度	男性	女性	計
自立	0	0	0
I	1	3	4
Ⅱa	1	1	2
Ⅱb	2	4	6
Ⅲa	1	16	17
Ⅲb	7	23	30
Ⅳ	2	6	8
M	0	8	8
計	14	61	75
Ⅲa以上の占める割合		84%	

d. 年齢構成

年齢	男性	女性	計
65歳未満	1	0	1
65～69	2	0	2
70～74	4	0	4
75～79	3	4	7
80～84	1	3	4
85～89	2	19	21
90～94	1	23	24
95以上	0	12	12
計	14	61	75
平均年齢	75.85	89.9	87.28

(4) 入所前の状況

入所前の状況	男性	女性	計
自宅から入所	3	27	30
老人保健施設から入所	6	23	29
病院及び療養型から入所	3	9	12
その他入所（有料、グループホーム等）	2	2	4
計	14	61	75

(5) 年度内の入退所者件数（R3. 3. 31 現在）

	入所		計	退所		計
	男性	女性		男性	女性	
要介護 3	1	3	4	1	2	3
要介護 4	2	9	11	1	4	5
要介護 5	2	3	5	2	9	11
その他	0	1	1	0	0	0
計	5	16	21	4	15	19

※ 入退所数の誤差 2 名分は退所が決定していたが、手続き等の関係で差異が生じた。

(6) 退所理由

理由	男性	女性	計	
家族引取り	0	0	0	
他施入所	0	0	0	
長期入院・療養型	1	4	5	
施設内死亡	看取	0	2	2
	検死	0	4	4
入院後死亡	3	5	8	
計	4	15	19	

2. 処遇の状況

【日常生活援助】

(1) 排泄

プライバシーの保全、尊厳を損なわない配慮をしながら援助

項目	日中			夜間		
	男	女	計	男	女	計
自立	2	9	11	1	6	7
トイレ誘導	7	36	43	3	1	4
ポータブル介助	0	0	0	1	16	17
尿・便器介助	0	0	0	1	0	1
オムツ	5	14	19	8	36	44
その他	0	2	2	0	2	2
計	14	61	75	14	61	75

- ※ 排泄物の量や質について職員の評価基準を統一させるため、スケール表を導入し、その評価から利用者一人ひとりの支援を検討した。
- ※ 自立排泄を目標に身体的側面の他、心理的・社会的・習慣的側面など、その人の“生活”全体を踏まえ、個々の排泄状況を分析し、ケースミーティングに取り上げ、自立へ移行するように職員の意思統一を図り努めている。

(2) 更衣 残存機能と清潔保持に努めている。

項目	男	女	計
自立	3	8	11
一部介助	3	18	21
全介助	8	35	43
計	14	61	75

- 一部介助 衣類を準備し障害の程度に応じで介助する方
- 全介助 疾患により自ら行えない方

(3) 洗面

項目	男	女	計
自立	4	15	19
一部介助	3	19	22
全介助	7	27	34
計	14	61	75

- 一部介助 洗面所に誘導し、タオルで拭ける方（声掛けを含む）
- 全介助 タオルにて介助

(4) 口腔ケア

口腔清拭保持と状態観察

項目		男	女	計
自立		2	14	16
要介助	声かけ	1	10	11
	うがい	1	3	4
	義歯	3	16	19
	歯磨	7	10	17
	コットン	0	8	8
計		14	61	75

- 声かけ 声かけして歯ブラシに歯磨き粉をつけて促す
- 洗 口 歯のない方はシンリング（すすぎ、うがい）を実施
- 義 歯 職員が歯ブラシで洗浄、うがい介助、夜間はポリデント洗浄
- 歯 磨 歯のある方で一部介助が必要な方
- ガーゼ ガーゼにて洗浄

(5)入浴

清潔保持とともに全身の状態観察を行い、心理的に満たされた入浴を楽しんでいた
だけよう実施している。

項目	男	女	計
自立	2	1	3
介助	一部介助	14	17
	全介助	34	41
	清拭	1	1
	機械浴（ストレッチャー）	11	13
計	14	61	75

一部介助 洗う意欲はあるが不十分な方

全介助 疾患により不十分な方

※ 清潔保持と心身のリラックスのため、ADLに合わせた入浴を実施し、個々の
好みを尊重し、時間設定した対応をしてきた。

※ 利用者の心身の状況に合わせ、入浴の順番についても配慮し、その人の生活が
より快適なものになるよう、生活支援係全体で利用者の生活のコーディネート
に努めてきた。

(6) 食事

温かい雰囲気できちんと食べられるよう配慮し提供している。

項目	男	女	計
自立	7	36	43
一部介助	4	5	9
全介助	2	14	16
経管栄養等	1	6	7
計	14	61	75

一部介助 スプーンや手づかみで口に運ぶが殆どこぼしてしまう方。

声かけして、口元にスプーンを持っていき、口をあけてもらう方。

全介助 食べる動作を忘れるなど、動作ができない方。

※ コロナ禍の中、食事は利用者にとっては日常生活の楽しみのひとつとなっ
ている。その人に合った食事や好む食事を目標に介護・看護職員他、管理栄養士が
毎日ミールラウンドを行い、食形態や量など利用者の変化に対応するよう努め
ている。

※ また「セレクトの日」で、好みのメニューを選ぶなどして、行事などで変化の
ある食事を提供している。

※ なお、「行事食メニュー」「食糧構成基準量と摂取量」は別記を参照。

(8) 移動・誘導

残存機能を活用し、個々に合った介助を行っている。

項目		男	女	計
自立	歩行	2	2	4
	シルバーカー歩行器	0	7	7
	車椅子	2	9	11
要 介 助	誘導	0	1	1
	誘導（杖）	0	1	1
	車椅子（一部介助）	3	5	8
	車椅子（全介助）	6	34	40
	歩行介助	1	2	3
計		14	60	75

自立歩行	声かけのみで目的地へ行ける
誘導	声かけし、職員と一緒に目的地まで行ける
車椅子一部介助	移動のみの介助で、声かけで目的地まで行ける
車椅子全介助	移動し、職員と一緒に目的地まで介助

【行事活動】

(1) 実施行事

実施月日	行事名	内容	実施場所
5月5～7日	菖蒲湯	入浴の際に浴槽内で菖蒲の香を楽しむ。菖蒲独特の爽やかな香りが邪気を払い、無病息災の祈りを込める。	ホーム内
5月17日	メッセージカード&母の日	利用者と一緒に写真付メッセージカードを作成し、ご家族に様子を伝える。カーネーションを飾り、家族との思い出の話を語ってもらう。	ホーム内
7月1～7日	七夕	短冊に願いを込めてフロアの笹に飾る。七夕に因んだ食事を提供し、季節感も味わう。	ホーム内
7月12～16日	盆供養	故人が生前を過ごした施設に迎えし、冥福を祈ると共に靈魂を供養する。	ホーム内
9月20日	敬老会	祝膳で賀寿を祝う。ご家族等から敬老のお祝いメッセージや手紙を頂き、職員が利用者の前で代読する。お祝いの記念写真を撮影する。	ホーム内
12月20日	クリスマス&年忘れ会	クリスマス飾りを施し、職員による唱などの催し物で楽しんでいただく。昼食には華やかな食事で一年の労をねぎらう。	ホーム内
12月21日	お茶の会	茶道を通じ、和敬清寂というお茶の心と伝統に触れる。	ホーム内

12月21～23日	ゆず湯	匂を迎える香り高い柚子をふんだん浴槽に入れ、スッキリした香りが心を落ち着かせ、日々の疲れを癒す。	ホーム内
1月1日	新年祝賀会	フロアを優雅に装飾し、おせち料理やお屠蘇で新年の幕開け祝い、日本の正月を愉しむ。	ホーム内
2月3日	節分	豆まきで厄を払い、恵方巻や福ご飯で福を呼ぶ。	ホーム内
3月3日	ひな祭り	雛人形を飾り、ちらし寿司や葛切りで桃の節句を祝う	ホーム内

(2) レク・クラブ活動（実働）

- ◆ 集団…料理クラブ、歌集を用いての歌、体操、手遊び、パタカラ体操、ボール投げ、ボール送り、テニス、ホワイトボードを用いてのクイズ、なぞなぞ、漢字問題、ことわざ、都道府県クイズ、しりとり、あるなしクイズ、紙芝居などなど
- ◆ 個人…塗り絵、折り紙、スクラッチアート、編み物、パズル、計算ドリル、刺繍糸アート

(3) 活動支援

◆ 面会等

新型コロナウイルス感染症のため、オンライン面会及び窓越し面会の他、電話や広報、写真などで様子をお伝えするなど、可能な限り利用者と家族が繋がれる機会をつくれるよう努力をした。

◆ 相談支援等

一同を紹介する利用者懇談会の形式から、個別に実施する形式に変更。月間予定表の配布と利用者の意見や要望、連絡の場だけではなく、利用者の不安や心配事を聴くことに重きを置いて取り組んだ。来年度は、従来の利用者懇談会の形式に戻し、安全に活動していく。

◆ 理容・美容

毎月理容1回、美容2回地域の理美容師により実施している。理美容師の方々にも標準予防策の実施の他、フェイスシールドと手袋を着用してもらい、接触を限りなく避ける形で実施した。

◆ 嗜好品購入

ご家族様等による嗜好品の持参の他、生活協同組合「コープみらい」のカタログから、お菓子などの嗜好品を利用者が選び、配達を受けている。また買物ボランティアによる近隣施設への買い出しなども行った。

【健康状況】

(1) 定期診察状況

項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
内科	64 (104)	68 (94)	74 (116)	65 (130)	67 (95)	72 (115)	74 (120)
精神科	32 (24)	32 (24)	34 (29)	36 (29)	39 (31)	33 (31)	39 (33)
歯科	60	31	81	60	60	49	61
項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	総数
内科	72 (109)	72 (127)	72 (120)	75 (120)	68 (138)	842 (1388)	2231
精神科	37 (32)	20 (14)	43 (31)	42 (31)	40 (27)	427 (336)	793
歯科	65	64	33	61	78	703	
						計 3727	

【診察のみ（診察処方）とで区別してカウント】

(2) 健康診断状況とインフルエンザ予防接種・肺炎球菌ワクチン接種

※ 定期健康診断は、コロナ禍にて中止（医療体制の逼迫により）

※ インフルエンザ予防接種は、利用者全員に希望を伺う（入院中接種者除く）。

希望者には南台病院下山医師による接種を実施。

- 季節型インフルエンザ接種者 71名
- 肺炎球菌ワクチン接種者 17名（内、新規入所時接種：8名）

(3) 外来受診状況

診療科	内科		脳神経外科		整形外科		皮膚科		眼科	
性別	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女
件数	11	92	0	4	1	33	4	10	0	4
診療科	泌尿器科		精神科		救急外来		その他			
性別	男	女	男	女	男	女	男	女		
件数	2	12	0	0	2	10	0	9		

(4) 受診先医療機関

医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数	医療機関名	件数
南台病院	111	一橋病院	36	東大和病院	12	公立昭和病院	11
多摩北部医療センター	1	立川災害医療センター	1	セントラルクリニック	4	久米川病院	4
緑風荘病院	6	あかしあ脳外科	4	浅谷眼科	4	その他	6
							計 200 件

(5) 入院期間

日数	0～7	8～14	15～30	31～90	90～	合計
男	1	2	3	3	0	9
女	5	4	13	11	0	33
計	6	6	16	14	0	42

(6) 入院患者病名

病名	人数	病名	人数
肺炎（気管支炎含む）	12	脱水	1
腎盂腎炎	7	胆嚢炎	1
骨折	5	腹部大動脈破裂	1
敗血症	3	悪性腫瘍	1
食欲不振	3	尿管結石	1
心不全	2	多臓器不全	1
尿路感染症	2	脳出血	1
消化管出血による貧血	2	その他	5

【延べ人数でカウント】

3. 実習生・ボランティアの受け入れと地域福祉

(1) 実習生の受け入れ

形式	学校名	人数	延べ人数	研修（実習）目的
オンライン実習	東京医療保健大学	25	25	看護実習
	武蔵野美術大学	16	112	教員実習に伴う介護体験
	国際基督教大学	1	5	教員実習に伴う介護体験
	東京大学	1	5	教員実習に伴う介護体験
	国立音楽大学	2	10	教員実習に伴う介護体験
	東京神学大学	2	10	教員実習に伴う介護体験
来所	白梅学園大学	2	20	介護実習
	東京 YMCA 医療福祉専門学校	1	16	介護実習

(2) ボランティアの受け入れ状況

グループ名	内容
個人	買い物、縫い物、理容・美容（有料）

買い物や縫い物は、利用者と直接接しない方法で実施、理容・美容については、上記(2)活動支援の「理容・美容」を参照。

(3) 地域福祉

学校名	内容
なし	-

今年度は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止。次年度も感染症にて不透明なところだが、地域連携・実習生・ボランティア委員会を中心に、福祉サービスを必要とする人たちが地域社会を構成する一員として、社会、経済、文化に限らずあらゆる分野の活動に参加する機会を得ることができるよう努めていきたい。

4. 各係

(1) 介護事故予防委員会

ケアカンファレンスや研修を通して職員に対して、事故予防策の周知徹底と事故予測の向上を図ってきた。結果的に 124 件と昨年から 42 件事故件数は減少することができた。昨年からの課題であったヒューマンエラーによる見守りセンサーなどの介護用品の不適切な取扱いによる事故は、職員間でトランシーバーなどを用いて定期呼応確認を行い、センサーのスイッチ入れ忘れ防止に取り組んできたことで、事故件数 4 件という減少好転になったと思う。次年度は、利用者の理解をより深めていき事故予防に努めていく。また、職員教育も引き続き行っていき、事故予想能力やアセスメント能力を高めていけるようにして行きたい。

(2) 身体拘束廃止委員会

身体拘束廃止への取り組みは、職種を問わず高齢福祉分野に関わる全ての者に対し、「ケアの本質とは何か」を問いかけ、自身の支援を振り返り、発想の転換に迫る重要な取り組みである。

今年度は身体拘束廃止に関する基本的な考え方の他、我々のケアに重きをおき、委員会活動を進めた。職員育成については年 2 回の研修を実施した他、OJT と現場指導を平行し、私たちの声掛けや言葉の選択、更には利用者の人権尊重と尊厳保持についても指教に努めた。しかしながら日々の業務に追われしまうと、業務優先になり、利用者を主体とした思いが薄れてしまう人がいたのも事実であるため、今後も委員会が中心とり、引き続き継続してこの取り組みを実施していく。

(3) 感染症予防委員会

コロナに始まりコロナで終わった年度だった。

感染症対策にあたっては、保健所等の社会状況を注視しながら、協力医療機関や協

力医からも情報を収集し予防に努め、利用者の生活への影響も考慮し、様々な感染対策を講じてきた。

また研修にあたっては、新型コロナウイルス感染（COVID-19）をメインとし、併せて食中毒とノロウイルス・インフルエンザの予防について、各感染症の特性と標準予防策の重要性を中心に年 3 回の研修を実施。職員一人ひとりが感染症予防に対し、高い意志を持って職員全体で協力して取り組むことができた。

今年度、幸いにも施設内感染を防げたのは現場職員の日々の努力の成果と考える。現在も新型コロナウイルス（COVID-19）が世界的に流行しているため、利用者や職員の命を守ることを第一に考え、施設でできることから取り組んでいきたい。

（4）看取り介護委員会

今期は 2 名の方を施設で看取ることが出来た。コロナ禍の中ではあったが、看取りケアについては、感染予防策を徹底して頂き、家族との面会時間を極端に制限することなく、一緒に過ごす時間を大切に支援させて頂いた。

今後も施設で最期を迎える機会が増えてくることが予想される。次年度は、更なる体制の整備を行い最善の看護と介護が行えるようにし、看取り加算の取得を目標に実現できるように努めていきたい。

（5）褥瘡予防委員会

介護用品の継続的な補整強化の他、従来の体位変換表を一新と現場指導を実施したことにより、体位変換支援が定着し褥瘡を予防することができた。しかし”ケアの質”という部分では、職員の技術力の差を埋めることができなかった。その結果、繰り返し皮膚トラブルを発生させてしまった。もちろん体位変換だけの問題ではないが、事実、個人単位での褥瘡予防の支援が徹底することができなかった。

褥瘡を予防するには、利用者の生活を総合的にマネジメントする必要がある。そのためにも、まずは委員会が中心となり、多職種と連携し適切なサービスを提供していきたい。

（6）生活支援係

食事においては昨年度から継続目標としている『水分補給の強化・重要性』について水分の摂取状況を職員全体で把握することにより利用者の水分の確保に努めた。また職員一人ひとりが利用者の好みを把握し、嗜好品を揃えるなど利用者に向き合う姿がみられるようになった。しかし排泄の面に目を向けると、尿路感染症や腎盂腎炎に罹患する利用者が増加した。その大きな要因としては、必要水分量の確保及び陰部洗浄の不十分さが挙げられる。次年度は個別の水分摂取量の把握と提供体制を整備する。また効果的な陰部洗浄を提供する為に環境整備と研修を実施していく。

更に入浴については、スライドシートの導入や個別単位での援助の見直しはできたが、介護量のバランスを考えたサービス提供体制を整えることが出来なかった。その要因として入浴のマネジメントが不十分であったこと、さらには現場の声に迅速に対

応することができなかったことが挙げられる。次年度は職員と密に情報交換し、快適で安全な入浴について環境を整備していく。

(7) ケアプラン係

社会的な感染症の蔓延により、社会資源の活用に制限が加えられた為、フォーマルサービス・インフォーマルサービスが提供できない状況が長く続いてしまった。またケアプランの説明・同意については、感染予防の観点から電話や手紙を添えてケアプランを郵送させて頂いた為、支援開始と同意日にタイムラグが生じる事案も数件で発生させてしまった。

しかし余暇活動を充実する為に体操や歌、クイズなどの集団レクに力を入れ、サービスが向上したことや、面会制限がされている中でも、利用者様の写真を同封し近況報告をするなど、利用者と家族を繋ぐ支援ができたことは評価できる。またケアプランのデジタル化により、作業効率は格段に上がった。次年度は利用者の個人情報の管理方法もデジタル化し、容易に情報収集できる体制を整えていきたい。

(8) レク・クラブ係

家族との時間や外出の機会が確保できない中、今年度は施設内で行えるレクリエーション活動に力を入れ取り組んできた。レクリエーションを通じて、人と人とのコミュニケーションを推進する場として、さらには楽しさや喜びなどから心身の活性を高め、活動意欲を引き出すことに注力してきた。その一方、課題も多く見つかった。3階フロアでは、業務に位置付けたことによりレクリエーションが定着できたのに対し、2階フロアにおいては、職員頼みになってしまい体制を整えることができなかった。またレクリエーションの内容についても、バリエーションに乏しく職員個々の考えで行っているため、内容量や支援効果にも差が生じてしまった。そのため次年度は、活動に使用する物品を充実させて行く他、レク手順のマニュアル化とレクメニューの充実、更にはケアプランと連動し、利用者一人ひとりの生活行為の向上に努めていく。

クラブ活動については、新型コロナウイルス感染症の影響により外部ボランティアの協力が得られず、書道クラブ・華道クラブは活動休止したが、料理クラブは職員が主となり開催することができた。料理クラブとしては、具材を混ぜたり、手を動かし、見て楽しみ、匂いを感じ、焼いた音を聞き、食べて味わう事で五感を刺激する活動ができた。次年度は活動休止としている両クラブの再開に向けて準備を進めていきたい。

(9) ショートステイ係

※ ショートステイ係は、短期入所生活介護事業報告欄を参照。

5. 栄養、給食関係

給与栄養基準量と摂取量

給与栄養基準量	給与栄養量	
	基準量	摂取量
エネルギー (kcal)	1500	1528
たんぱく質 (g)	58.0	57.7
脂質 (g)	35.0	36.5
カルシウム (mg)	634	658
鉄 (mg)	6.2	7.6
ビタミンA (μg)	696	660
ビタミンB1 (mg)	0.9	0.85
ビタミンB2 (mg)	1.1	0.79
ナイアシン (mg)	11	12.8
ビタミンC (mg)	100	97
食塩相当量 (g)	7.2以下	7.1
食物繊維 (g)	17.6	13.2
炭水化物エネルギー比 (%)	63.5	63.4
脂肪エネルギー比 (%)	21	21.5
蛋白質エネルギー比 (%)	15.5	15.1

給与栄養基準量	基準栄養量に対する 給与摂取量の比率
エネルギー 1500 kcal	102%
タンパク質 58 g	99%
脂質 35 g	104%

(令和3年3月分)

行事食メニュー (令和2年度)

月	日	行事	献立
4	1	桜祭り	桜ご飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、けんちん煮、ごま和え ＜間食＞ねりきり（桜）
	2	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、かぶのかにあん、小松菜の磯和え
	5	郷土料理の日	～沖縄県～ ジュシー、味噌汁、フーチャンプルー、大根の含め煮、ヨーグルト
	9	お楽しみ献立	赤飯、味噌汁、さばの立田揚げ、かぼちゃの甘辛煮、浅漬け
	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン ＜間食＞生菓子（鯉のぼり）
5	5	端午の節句	散らし寿司、清汁、炊き合せ、抹茶プリン ＜間食＞生菓子（ねりきり）
	9	お楽しみ献立	ターメリックライスの魚介モルネソースかけ、コンソメスープ、カリフラ ワーのアボガドソース、ババロア
	10	母の日	鯛めし、清汁、茶巾盛り合わせ、しめじと青菜の和え物 ＜間食＞キャラメルケーキ
	11	赤飯の日	赤飯、清汁、鮭の照り焼き、がんもの含め煮、酢の物
6	3	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香味焼き、厚揚げと野菜のくず煮、浅漬け
	4	お楽しみ献立	ご飯、味噌汁、チキンカツ、チーズと野菜のサラダ、メロンムース
	18	郷土料理	～福岡県～ かしわ飯、清汁、かれの明太マヨ焼き、がめ煮、漬物
	21	父の日	鮭の散らし寿司、清汁、夏野菜の炊き合わせ、お浸し ＜間＞どら焼き
7	6	お楽しみ献立	祭り寿司、冷しそうめん汁、大根のかにあんかけ、 柚子水まんじゅう
	7	七夕	三色そうめん、天ぷら、豆腐の蟹あんかけ、星ゼリー
	18	赤飯の日	赤飯、豚汁、鮭の香り蒸し、里芋の煮付け、海老と三つ葉のみぞれ和え

8	7	郷土料理の日	～山形県～ ご飯、芋煮汁、枝豆入りハンバーグの甘辛煮、冷や汁（煮浸し）、だし（和え物）
	12	お楽しみ献立	枝豆と茗荷の生姜ご飯、清汁、フライ盛り合わせ、冬瓜の冷やし葛あん、抹茶水まんじゅう
	15	終戦の日	さつま芋ご飯、すいとん、魚の煮付け、角天の炊き合わせ、しその実和え
	19	赤飯の日	赤飯、味噌汁、鮭の香り蒸し、炊き合わせ、胡瓜の酢の物
9	20	敬老の日	<松花堂弁当>赤飯、お吸い物（かまぼこ、三つ葉）前菜（青菜のきのこ和え、菊花と長芋の酢の物、蟹の重ね蒸し、厚焼き玉子、甘味（寿ねりきり）炊き合わせ（六角里芋、亀さつま芋、鶴人參、南瓜、魚河岸揚げ、絹さや）、焼き物（鶏肉の野菜巻き）天ぷら抹茶塩添え（舞茸、ピーマン、海老）
	26	郷土料理の日	～群馬県～ 釜めし、しこね汁、みそ田楽、白和え
	29	お楽しみ献立	ご飯、清汁、すき焼き風煮、温泉卵、三色なます
10	9	お楽しみ献立	栗ご飯、花蒲鉾の清汁、ほっけの西京焼、炊き合わせ、胡瓜と小海老の酢の物
	28	赤飯の日	赤飯、清汁、揚げ鶏のみぞれかけ、炊き合わせ、もやしの和え物
	30	郷土料理の日	～京都府～ 大根菜飯、味噌汁、鮭の湯葉あんかけ、炊いたん、千枚漬け
11	26	赤飯の日	赤飯、清汁、赤魚の煮付、豆腐の野菜あん、もやしの辛子醤油和え
	13	握り寿司の日	握り寿司、干瓢巻き、清汁、豆腐の海老あん、ピーナッツ和え
	29	お楽しみ献立	coco 壱特製カレー、コンソメスープ、和風サラダ、ヨーグルト
12	3	郷土料理の日	～東京都～深川めし、清汁、揚げ出豆腐、小松菜の磯和え
	13	お楽しみ献立	吉野家の牛丼、清汁、けんちん煮、イチゴムース
	17	赤飯の日	赤飯、清汁、鱈の西京焼き、じゃが芋煮、風味和え
	20	年忘れ会	クリスマス弁当：太巻き、いなり寿司、クリームコロッケ、海老フライ、さつま芋のツリーサラダ、浅漬け、一口ロールケーキ、コーンかき玉スープ
	24	クリスマス	洋風ピラフ、コンソメスープ、シーフードのクリーム煮、鴨と卵のサラダ、ホワイトチョコムース
	31	年越しそば	ご飯、一口年越しそば、うなぎの蒲焼き、炊き合わせ、りんごのコンポート
1	1	正月	赤飯、お吸い物、おせち料理 一の重：伊達巻、紅白蒲鉾、黒豆、数の子、栗きんとん、松竹梅羊羹 二の重：甘鯛の西京焼き、鶏の八幡巻き、紅白なます、海老の艶煮、のどくろの大根巻き、昆布巻 三の重：煮しめ（松大根、ねじり梅人參、野菜しんじょう、椎茸、穂先たけのこ、こんにゃく、六角里芋、ふき、絹さや）
	2	正月	ご飯、お雑煮風汁、鱈の西京焼、一口がんもの炊き合わせ、千枚漬け
	3	正月	ねぎとろ丼、きのこ汁、揚げだし豆腐、オクラの梅肉和え
	5	郷土料理の日	～北海道～ ご飯、かしわぬき、鮭のチャンチャン焼き、かぼちゃしるこ、昆布和え
	7	七草粥	七草粥、厚焼き玉子、きんぴら蓮根
	8	赤飯の日	赤飯、清汁、白身魚のかぶら蒸し、茄子のそぼろあん、菜の花のお浸し
	12	お楽しみ献立	オムライス、クリームスープ、ポテトサラダ、果物
2	3	節分	（昼）恵方巻、豚汁、豆腐の五目あん、菜の花の辛子和え
	3	節分	（夕）福ご飯、味噌汁、節分焼き、さつま芋のオレンジ煮、胡瓜とわかめの酢の物
	11	郷土料理の日	～静岡～ 桜海老のかき揚げ丼、味噌汁、枝豆のあんかけ豆腐、黒糖まんじゅう
	14	バレンタイン	ご飯、かきたま汁、きのこソースハンバーグ、里芋煮、チョコプリン
	19	握り寿司の日	握り寿司、かんぴょう巻き、清汁、かに豆腐、小松菜のピーナッツ和え
3	3	桃の節句	江戸散らし、清汁、炊き合せ、菜の花の辛子和え <間食> ひな饅頭
	9	赤飯の日	赤飯、きのこ汁、赤魚の煮付け、ひき肉と春雨の炒め物、胡麻和え
	18	お楽しみ献立	鯛めし、清汁、炊き合わせ、浅漬け

短期入所生活介護 事業報告

運営概況

当事業（以下「ショートステイ」）においては、利用者の在宅生活を支える上では、必要不可欠なサービスであることは理解しているものの、感染症が流行した状況の中では、適正に運営する事は困難を極めた。

感染予防策を徹底しながら運営したが、とりわけ小川ホームのショートステイは特別養護老人ホームに併設しているため、エリア分離には限界がある。当法人ではないがクラスターの発生が報道されることもあり、これを懸念してか利用を控える社会の傾向が強くなった。また、本人様や同居ご家族に何らかの感染症症状がある場合など、拡大リスクを抑えるため、急遽や新規の受入れができないこともあった。その結果、ショートステイの稼働率は40%にも届かず、地域福祉に貢献する事業としての役割は果たすことはできなかった。特別養護老人ホームとショートステイのニーズは元より異なっているが、これらを両立して運営するためには定期的PCR検査の実施やワクチン接種の他、さらなる予防対策を充実していくことが必要であると考えている。

高齢者の方は感染した際の重症化のリスクは高いため、これらの体制が完備するまでは入り口チェックを行わざるを得ないのも現状である。次年度は、その体制整備に重点をおき取り組んでいきたい。

1. 令和2年度月別利用実績

月 項目	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
稼働日数	30	30	29	24	31	29	31
延べ人数	75	50	78	88	118	102	99
1日当たり	2.5	1.7	2.7	3.7	3.8	3.5	3.2
稼働率	31.25	21.25	33.75	46.25	47.5	43.75	40
月 項目	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R1年度
稼働日数	30	31	31	28	28	352日	366
延べ人数	153	101	94	68	64	1,090人	2,558人
1日当たり	5.1	3.3	3.0	2.4	2.3	3.1人	7.0
稼働率	63.75	41.25	37.5	30	28.75	38.75%	87.5%

2. 実人数及び新規受入れ件数

年度	月 実人数	新規受入												
		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
R2年度	39	1	1	1	1	1	2	1	2	3	2	0	0	15
R1年度	72	8	7	10	6	7	7	13	8	2	1	9	2	80

小川ホーム デイサービスセンター 事業報告

運営概況

各事業目標に対して：

- 法人理念である、ご利用者の心を大切に、健全で安らかな生活を支えるという考え、行動をとれている。
- 中重度者利用率は、平成 30 年度 31.7%、令和 1 年度 27.0%、令和 2 年度 22.8%で推移。今年度の傾向としては、認知症の進行に伴う重度化が目立っている。具体的には、認知症の進行とともに、利用日が週 4 日～5 日に増加。その後、入所されるケースがほとんどである。
- 目標の稼働率 90%、一日平均 27 名に対して、23.2 名の結果。この結果に終わってしまった原因は、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、令和 2 年 2 月中旬から新規申込控えの影響、令和 2 年 4 月中旬から 7 月まで新規受入をストップしたこと、4 月上旬から 5 月上旬の間、要支援者の方々に、ご利用を控えて頂いたことが大きなところである。
- 個別、グループ活動の面は、職員の創意工夫もあり、楽しみや活力・集う喜びを得られ、心穏やかに過ごせるような援助をできている。
- 研修については、DVD での研修があったが、業務時間内での実施が難しかった。また、非常勤職員が、ほとんどであるために、業務終了後の設定が難しかった。今後は、月に一回映画会行事を実施しているので、その時間を研修にあてることも検討の余地があると思われる。
- 緩和型デイサービスについては、9：30～11：30 へ時間変更し運動面中心のプログラムとして実施。今年度は、一体型という概念を踏まえつつも、通常型デイサービスと住み分けはできてきたが、稼働率向上にはつながらなかった。包括職員と面談を行い、緩和型デイに紹介したい対象者の方々が、もう少し、明るく、元気がでる内容の体操が良いとのニーズが判明。包括職員と話し合いを重ねることで、徐々に稼働率の向上につながってくる見込みがでてきている。現状、1 名体制で行っているため、送迎範囲に課題があり、小川ホーム周辺のご利用者を対象にさせて頂いているのが現状である。
- 研修については、デイサービス事業所内での OJT が中心として実施。研修マニュアルが不完全なため、改めて研修計画の練り直しが必要である。

通所介護計画書作成、フェースシート更新業務については、3 人の常勤介護職員(生活相談員)間で、介護業務の関わり比率を検討の上、分担制を導入。そのことで、スムーズな介護支援ができるようになると思われる。

1. 月別実績

	内容/月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
参加数	予防	438	413	443	506	516	521	536	540	469	501	525	586	5,994
	介護	48	40	65	123	104	137	139	129	129	112	117	133	1,276
	計	486	453	508	629	620	658	675	669	598	613	642	719	7,270
	(2年度計)	650	689	617	683	646	600	644	682	631	611	659	636	7,748
新規	予防	0	0	0	0	1	2	3	6	1	1	1	2	17
	介護	0	0	0	0	4	4	4	1	0	1	6	2	22
	計	0	0	0	0	5	6	7	7	1	2	7	4	39
廃止	予防	0	0	0	2	1	1	1	0	4	2	0	1	12
	介護	1	5	3	1	3	4	2	1	0	0	4	2	26
	計	1	5	3	3	4	5	3	1	4	2	4	3	38
予防	運動機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	3	4	4	9	9	8	9	7	8	7	7	9	84
介護	機能訓練	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	口腔機能向上	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	栄養改善	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	入浴(一般)	124	137	139	155	165	177	195	205	192	193	192	206	2,194
	入浴(機械)	114	102	109	112	108	101	93	96	86	96	110	137	1,264

2. 要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成比%
～64	男	0	0	0	0	0	0	0		0.0
	女	0	0	0	0	0	0	0		
	計	0	0	0	0	0	0	0		
65～74	男	0	0	1	1	0	0	0	2	4.7
	女	0	0	1	0	1	0	0	2	
	計	0	0	2	1	1	0	0	4	
75～84	男	0	0	2	1	0	1	0	4	29.8
	女	1	1	10	4	1	3	1	21	
	計	1	1	12	5	1	4	1	25	
85～89	男	0	1	5	1	0	0	1	7	35.7
	女	1	3	10	6	3	0	0	23	
	計	1	4	15	7	3	0	0	30	
90～	男	0	1	1	2	1	0	0	5	29.8
	女	0	3	7	1	4	2	3	20	
	計	0	4	8	3	5	2	3	25	
計	男	0	2	9	5	1	1	0	18	100
	女	2	7	28	11	9		4	66	
	計	2	9	37	16	10	6	4	84	

(令和3年3月分)

3. 移動方法別利用者数

		男	女	計
歩行	自力	12	50	62
	介助	1	4	5
車椅子	自力	1	3	4
	介助	4	9	13
計		18	66	84

(令和3年3月分)

4. 地域別利用者数

地域名	男	女	計
小川町1	0	4	4
小川町2	0	0	0
小川西町	12	36	48
小川東町	4	13	17
栄町	0	0	0
上水本町	1	0	1
学園西町	1	4	5
学園東町	0	0	0
仲町	0	0	0
津田町	0	6	6
たかの台	0	0	0
上水新町	0	0	0
東村山	0	3	3
東大和	0	0	0
計	18	66	84

(令和3年3月分)

行事

行事名	暑気払い
日程	8月3日～8日(すいか割り)
場所	活動室
参加人数	148名(延べ利用者、職員)
行事名	暑気払い
日程	8月10日～15日(かき氷)
場所	活動室
参加人数	145名(延べ利用者、職員)
行事名	夏祭り(ビアガーデン) ※新型コロナ感染予防のため中止。
日程	
場所	
参加人数	
行事名	忘年会 ※鍋作り中止し、余興のみ実施。
日程	12月22～28日
場所	小川ホーム活動室
参加人数	156名(延べ利用者、職員)
行事名	初詣 ※新型コロナ感染予防のため中止。代わりに、施設内に神社を作り、初詣実施。

小川ホーム ホームヘルプサービス 事業報告

運営概況

令和 2 年度の事業目標「稼働時間月平均 700 時間以上実施」を設定したが、前年度と同じく大幅に達成できなかった。

その主な原因としては、令和 2 年 11 月より常勤 2 名体制になったことと、ヘルパーの確保が出来ないため、新規獲得も積極的に行うことができずにいる。

この一年間で受け付けた新規依頼は 29 件と前年度の 34 件を下回った。内訳が要介護 16 件・要支援 13 件（旧国基準 11 件、小平市独自基準 2 件）となった。一年間の全体（実人数）は平成 30 年度が 1,337 件、平成 31 年度は 1,338 件、令和 2 年度は 1,193 件、全体（延べ回数）は平成 30 年度が 13,117 件、平成 31 年度は 10,395 件、令和 2 年度 8,414 件となり、大幅に減っている。毎日訪問介護を利用されていた利用者が亡くなったり、在宅での生活に不安を感じ施設を希望し入所されたり、体調を崩されて入院、その後ショートステイを長期利用された後に自宅には戻られずに施設入所されるケースが多く見られ、同時にヘルパーの慢性的な人材不足も挙げられる。

令和 2 年度は、重度（要介護 4 及び 5、日常生活認知度Ⅲa 以上）の利用者が減ってしまったため、令和 3 年度は「特定事業所加算Ⅰ」の加算を算定することが出来ず、「特定事業所加算Ⅱ」の加算を算定することになった。今後また、「特定事業者加算Ⅰ」を算定していくためには、重度（要介護 4 及び 5、日常生活認知度Ⅲa 以上）の利用者を多く受け入れていく必要がある。人材確保のためにヘルパー養成事業や、新しい雇用形態の創設などを検討していく必要性を強く感じているが、非常勤ヘルパーの高年齢化も進み、両親の介護や孫の世話、体力的に身体介護が負担となり、新規の依頼があった場合も身体介護を受けることが殆ど出来ず、生活援助中心になってきているので、厳しい現状である。令和 3 年度はこの厳しい現状の中、「稼働時間月平均 800 時間以上実施」を設定している為、今まで以上に積極的に新規利用者の獲得に努めていかないといけない状況である。身体介護に不安があるヘルパーに対しては研修や同行を行うなどして、今年度は身体介護のヘルプも増やしていきたいと思っている。

総合事業（旧国基準・小平独自基準）は新規依頼 2 件あったが、終了になったケースもあるので、現在の利用者は 6 名となっている。今後も生活サポーター養成講座に参加するなどして生活サポーターの人材確保、及び育成に努めて行く必要がある。

1. 月別実績

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	103	103	102	99	99	101	99
延べ人数	743	679	717	732	696	736	724
1日当り	33.8	32.3	32.6	31.8	33.1	33.5	32.9
	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R1年度
件数	98	99	96	97	97	1193	1338
延べ人数	693	721	625	618	730	8414	10395
1日当り	31.5	32.3	28.4	30.9	32.1	平均 32.1	31.0

2. 要介護度・年齢別利用者数

年齢	性	事業 対象	支援1	支援2	介護1	介護2	介護3	介護4	介護5	計	構成 比%
～64	男	0	2	0	0	0	0	0	0	2	3.1
	女	0	0	0	1	0	0	0	0	1	
	計	0	2	0	1	0	0	0	0	3	
65～ 74	男	0	0	3	1	0	0	0	0	9	9.3
	女	0	1	1	2	1	0	0	0	4	
	計	0	1	4	3	1	0	0	0	13	
75～ 84	男	0	2	1	6	1	0	0	0	9	25.8
	女	0	4	6	3	2	0	0	0	22	
	計	0	6	7	9	3	0	0	0	31	
85～ 89	男	0	1	0	1	4	0	0	0	6	40.2
	女	0	8	10	7	4	3	1	0	31	
	計	0	9	10	8	8	3	1	0	37	
90～	男	0	2	3	1	4	1	0	0	8	21.6
	女	0	1	1	5	3	0	0	0	12	
	計	0	3	4	6	7	1	0	0	20	
計	男	0	7	7	9	9	1	0	0	33	100
	女	0	14	18	18	10	3	1	0	64	
	計	0	21	25	27	19	4	1	0	97	

(令和3年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	33	64	97
他市	0	0	0
計	33	64	97

(令和3年3月分)

4. サービス内容別実績

サービス内容		件数	延人数	サービス 時間 (時間)
訪問型サービスⅣ	月 1 回～ 4 回	18	62	59.6
訪問型サービスⅤ	月 4 回～ 8 回	2	15	15.0
訪問型サービスⅥ	月 9 回～ 1 2 回	0	0	0.0
訪問型サービスⅠ	月 5 回以上	11	55	51.8
訪問型サービスⅡ	月 9 回以上	7	59	52.2
訪問型サービスⅢ	月 1 3 回以上	0	0	0.0
訪問型サービスⅣ/2	月 1 回～ 4 回 (緩和型)	6	21	21.0
訪問型サービスⅠ/2	月 5 回以上	1	5	4.9
身体介護 1	3 0 分未満	5	23	10.9
身体介護 2	3 0 分以上 1 時間未満	11	67	65.9
身体介護 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	1	1	1.3
身体介護 4	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1	3 0 分以上 1 時間未満	3	21	20.8
身体 1 生活 2	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	2	4	5.2
身体 1 生活 3	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 2 生活 1	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	1	14	21.0
身体 2 生活 2	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 2 生活 3	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 1	1 時間 3 0 分以上 2 時間未満	0	0	0.0
身体 3 生活 2	2 時間以上 2 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
身体 3 生活 3	2 時間 3 0 分以上 3 時間未満	0	0	0.0
身体 1 夜	3 0 分未満	1	9	8.8
身体 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
身体 1 生活 1 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 2	3 0 分以上 1 時間未満	5	19	11.8
生活援助 3	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	39	320	320
生活援助 2 夜	3 0 分以上 1 時間未満	0	0	0.0
生活援助 3 夜	1 時間以上 1 時間 3 0 分未満	0	0	0.0
合 計		113	695	670.2

(令和 3 年 3 月分)

小川ホーム 介護計画センター 事業報告

運営概況

各事業目標に対して：

(1) 居宅介護支援(Ⅰ)の基準を維持する。

取扱件数40件未満を満たすことができた。

(2) 特定事業所加算(Ⅰ)または(Ⅱ)の基準を維持する。

算定要件の⑤「要介護3～5の割合が40%以上」について、月22～27%の割合となり(Ⅰ)の算定要件に満たなかった。(Ⅱ)を保つことができた。

(3) 認知症高齢者と中重度の要介護高齢者が安心して生活できるよう、地域でのケアマネジャーの役割を担う。

地域包括支援センターから依頼のあった困難ケース(認知症で独居、支援者が不在など)に迅速に対応した。

- ・ 経済的困窮の夫婦で支援者も高齢。生活保護受給しているが、受給日に全額使用してしまい、家賃・電話代・電気代・ガス代等が未払い滞納等あり。地域権利擁護事業との連携や都営住宅申し込みなどの対応を行った。

- ・ いわゆる「ゴミ屋敷」の独居の方。自宅内に他者を入れることを拒む。包括職員と同行して、訪問介護を導入しながら信頼関係の構築を図り、生活支援を行った。

昨年度行われた「おがワンフェスティバル」は、新型コロナウイルス感染症のため開催されず、協力機会はなかった。

(4) 現状のニーズを把握し、地域ニーズに即した介護サービスの展開をして行く。

日々のアセスメントやモニタリングにより、担当利用者のニーズ把握と介護サービスの展開を行った。地域特有の地域ニーズの分析までは至らなかった。

(5) 地域においてより良いサービスを提供する為に、必要な加算を算定できるように事業展開する。

初回加算 52件

特定事業所加算Ⅱ 2, 513件

入院時情報連携加算Ⅰ 40件 ・ Ⅱ 12件

退院退所加算Ⅰイ 6件

退院退所加算Ⅰロ、退院退所加算Ⅱイ、退院退所加算Ⅱロ、小規模多機能型居宅介護事業所連携加算、看護小規模多機能型居宅介護支援事業所連携加算、緊急時等居宅カンファレンス加算、ターミナルケアマネジメント加算の該当事例は無かった。

(6) 介護支援専門員実務研修における「ケアマネジメントの基礎技術に関する実習」等に協力、または協力体制を確保していく。

実習受入実績：前期は介護支援専門員受験者の減少により、東京都福祉保健財団からの依頼が無かった。後期は依頼はあったが、都内は緊急事態宣言下であり、新型コロナウイルス感染症予防の為、規定に従い「実習受け入れ見合わせ」を選択した。

実習受入事業所として東京都福祉保健財団に連絡をし、協力体制を確保している。

- (7)主任介護支援専門員の役割を認識し、地域包括支援センターの主任介護支援専門員と、連携、協力、協働しながら、地域のケアマネジャーに対してスーパービジョン(アセスメント力、質問力、気づきの提供等)を行い支援していく。また、困難ケースにおいても適切に対応できる体制を整えて行く。

小平市ケアプラン点検事業・ケアプラン指導研修事業に、主任介護支援専門員1名が指導的役割として参加。地域包括支援センターの主任介護支援専門員と協働で、市内の介護支援専門員のケアマネジメントの支援を行った。

困難ケースへの対応については、毎週行うミーティングにおいて月1回集中的に事例検討を行い、対応策を研鑽した。

- (8)平時からの医療機関との連携促進及び入退院時において更なる医療機関との連携促進により、医療と介護の連携を図る。

入院時には、北多摩北部保健医療圏共通様式の地域連携情報シートを使用し、入院機関に利用者の情報の提供(承諾を得たもの)とケアマネジャーの連絡先を伝え、連携を図った。入院時情報連携加算は計52件。

退院時においては、退院調整看護師や医療相談員と連絡を取り合い、退院カンファレンスに積極的に参加し、退院後の利用者の生活について連携を行った。退院退所加算は計6件(新型コロナウイルス感染症予防の為にカンファレンスの開催が減少)だが、電話で病院MSWらとの打ち合わせを行った。

在宅医療介護連携推進協議会主催の在宅ケアコラボ研修にオンライン参加し、在宅高齢者支援における知識と連携を深めた。

その他

- ・新型コロナウイルス感染症の影響で研修はオンライン研修が主となった。小平市ケアプラン研修、認知症ケア向上研修、ケアマネ学習会等に参加した。
- ・事業所内研修としては、毎週1回行っている計画センターの全体ミーティングで、ケアマネジメント技術の向上に努めた。今年度は東京都の「主任介護支援専門員更新研修テキスト」を使用し、「リハや福祉用具の活用」「看取りや看護サービスの活用」「認知症」「医療連携」「家族への視点」「社会資源の活用」「多様なサービスの活用」等について主任介護支援専門員を中心に学習した。
- ・ケアマネジメントについて、介護保険サービスでは対応できない事柄について、様々なサービスを探し対応を行った(障害福祉サービス・権利擁護事業サービス等の公的サービスの利用支援や、水道など工事業者の連絡先調べ等)。また、家族などの支援者が不在の利用者に対しては、手続きの支援を行った(引っ越し業者の見積もり依頼、JKKへの連絡、市からの通知の返送等)。
- ・要介護認定訪問調査については、新型コロナウイルス感染症感染予防の為に、小平市に関しては「実施見合わせ」依頼を行った。品川区1件行った。計1件。

ケアプラン作成件数（当月の月間計画作成数より算定、支援の受託は0件）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	221	212	210	211	212	209	206
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R1年度
件数	210	207	209	209	207	2,513	2,734

1. 要介護度別分類

年齢	男女	支援1	支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
～59	男	0	0	0	0	0	0	0	0
	女	0	0	0	1	0	0	0	1
	計	0	0	0	1	0	0	0	1
60～64	男	0	0	0	0	0	1	0	1
	女	0	0	1	0	0	0	0	1
	計	0	0	1	0	0	1	0	2
65～69	男	0	0	1	0	0	0	0	1
	女	0	0	1	1	0	1	1	4
	計	0	0	2	1	0	1	1	5
70～74	男	0	0	2	1	0	0	0	3
	女	0	0	3	3	2	2	0	10
	計	0	0	5	4	2	2	0	13
75～79	男	0	0	4	4	3	0	1	12
	女	0	0	6	3	0	1	2	12
	計	0	0	10	7	3	1	3	24
80～84	男	0	0	8	5	1	1	0	15
	女	0	0	18	8	4	2	0	32
	計	0	0	26	13	5	3	0	47
85～89	男	0	0	10	4	3	0	1	18
	女	0	0	23	10	4	7	1	45
	計	0	0	33	14	7	7	2	63
90～	男	0	0	3	9	6	1	0	19
	女	0	0	17	16	6	2	3	44
	計	0	0	20	25	12	3	3	63
合計	男	0	0	28	23	13	3	2	69
	女	0	0	69	42	16	15	7	149
	計	0	0	97	65	29	18	9	218

(令和3年3月分)

3. 地域別利用者数

地域	男	女	計
小平市	69	148	217
東村山市	0	1	1
計	69	149	218

(令和3年3月分)

小平市 地域包括支援センター 小川ホーム 事業報告

運営概況

小平市の事業方針・計画に基づいて重点項目（事業目標）を中心に業務を遂行してきた。地域包括支援センター（以下「センター」）には、地域包括ケアシステムの構築の推進を基に多種多様な総合的な相談ばかりでなく、地域作りにも積極的に取り組んできた。センターには、地域を作る使命がある為、特に地域作りについては、高齢者自身の介護予防の観点や地域との交流を図りながら地域に根差した活動を行いたかったが、今年度は新型コロナウイルス感染予防対策対応の為、実施できない行事も多くあり、満足いくものではなかったが、新しい生活様式を見据えたうえで、内容や取組を工夫（時間を短く・複数回に分ける等）しながら行った。

※今年度は、新型コロナウイルス感染予防対策の為、国の緊急事態宣言の発令により、かなり制限した形での業務体系となった。

試行錯誤しながらであるが、訪問時の感染症対策マニュアルを作成し業務に備えたり、分散勤務（2 チームに分け出勤人数を半分にし、午前、午後の交代勤務）や在宅勤務も取り入れたり、業務を行ううえで制限がかかる中で行う形となった。すべてではないが（介護予防講座、オレンジカフェ、サロン、認知症相談会の開催が出来なかった。ただ、出来ないだけで終わらせる訳にもはいかない為、包括支援センターとしては、コロナ禍でも出来る事をしていく事で、地域の高齢者に対して使命を果たしていく必要がある。

このままの状況が続いていくと地域の高齢者がフレイル状態となり、新型コロナウイルスで拡大する水面下の課題（外出自粛による閉じこもりからくる運動機能低下や食事の偏りによる栄養状態の悪化等のリスク）についての問題に発展する恐れもあるので、感染によらない二次的な健康被害にどう対処していくのか、又潜在化しやすい虐待の問題、高齢者の安否確認においても出来る事を考え行ってきた。内容や取組は以下の通り。

○生活支援体制整備事業における生活支援コーディネーターの活動について

地域包括ケアシステムの構築が叫ばれている近年、地域作りの仕組みの構築が必要であり、小平市でも着々とその歩みを進めている。

令和 2 年度は、スタート時から新型コロナウイルス感染症の収束が見通せず、協議会、その他、住民主体の活動、地域との連携を図る働きかけなど、企画と中止を繰り返す一年となった。「会えない」「集まらない」「話し合う事が出来ない」状況の中、出来ることを模索しながら活動を継続してきた。これまで築いた関わりを途絶えさせない、地域のつながりの大切さを共有し合える場づくりを目指し、工夫して活動してきた。

今後は、新型コロナウイルス感染状況を踏まえながら、協議会開催、その他の活動をその都度検討していく。協議会については、オンライン（ZOOM）開催が可能となっているが、出来るだけ多くの方に参加してもらえよう、オンラインが出来ない方には少人数で参加して

もらうハイブリッド開催を、月1回の頻度で開催していきたい。

又この小川西町地区での先行事例を元に、次の地域、小川東町地区でも㈱ブリヂストンに協力を依頼し、立ち上げ準備をしている。ブリヂストンは地域作りに貢献し、協力したいとの意向を示しており、このつながりを活かしながら、小川東町ならではの地域作りを地区民生委員にも協力をしてもらいつつ進めて行き、小川西町同様に生活支援体制整備事業の学習会から開始し協議会の開催へとつなげていく。

【二層協議会の開催】誰もが安心して暮らせる小川西町を考える会・みらい

日程	主な内容
5月	開催中止→アンケート実施：今後みらいで協議していきたいこと/みらいに参加して疑問に思う事/意見と感想
8月	開催中止→小川西町応援メッセージの記入
11月19日	日程を3回に分けて企画。一回のみ（各グループの情報共有・高齢者施設での感染対策について）
2月5日（ZOOM）	コロナ禍での思いや活動/これから話し合っていきたいこと
3月5日（ZOOM）	コロナ禍後、令和4年度の活動を考える。今話し合っておくべきこと（令和4年度の活動計画）/オンライン環境がないメンバーとの協議の持ち方。

➤ 地域の会議、行事への参加

＜小川西町＞小平西ネット第一ブロック懇談会、小川西町公民館講座企画委員会、
＜津田町＞津田公民館講座企画

➤ 地域の居場所立ち上げ・運営支援

＜小川西町＞フレトレ応援講座：住民主体の体操の集い・みんなで健康体操
なかま中宿
＜小川東＞いきらくサロン小川東

○介護予防見守りボランティアの積極的な活用とライフサポーター養成研修の関わり及び、地域におけるインフォーマルサービスの開発と積極的な活用について

見守りボランティア登録者は3月現在98名（男42名女56名）がいる。

前年度からすると、微増傾向であった。

➤ 通報・相談件数 20件

【登録者内訳】

小川西町：31名（男13名女18名）小川東町：22名（男7名女15名）津田町：9名（男5名女4名）学園西町：22名（男12名女10名）上水本町：14名（男5名女9名）

【見守りボランティアの交流会】

交流会開催の判断を、新型コロナウイルスの感染拡大状況に合わせて、その都度検討し可能な対応を行ってきた。集合で会えない時は、毎月のお便りを発送、書面と電話で個別にアンケートを実施してきた。今後は、新型コロナウイルスの感染状況により、交流会の開催、通報等の情報収集を引き続き行っていく。

オンライン環境のアンケート結果によると、対応できない方の方が多く、ZOOMでの交流会開催には、かなりの準備が必要である。

見守りボランティアの登録は地域活動の起点になる傾向が高い。昨年度は行った、秋のふれあいイベントは、今年度に関しては、新型コロナウイルス感染予防の観点から中止した。運営にボランティアとして参加し地域交流の必要性を皆で再認識し、開催にも意欲を示していたが、残念な結果となってしまった。次回に向けて準備をしていきたい。又介護予防リーダーや認知症支援リーダーは第二層協議会への参加など貴重な人材であり、その役割を担っている。今後も、地域の見守りの役割に加え、自身の介護予防の視点から、活動の場が広がるよう働きかける予定で、ブリヂストンとの協働で地域活動の創出を進めていけるようにしていきたい。

日程	主な内容	地区
4月	中止→アンケート実施：交流会で行いたいこと・見守り活動の疑問点、困った事・近隣の気になる方・自身の介護予防・共有したい情報	小川
5月	中止→アンケート実施：交流会で行いたいこと・見守り活動の疑問点、困った事・近隣の気になる方・自身の介護予防・共有したい情報	津田
6月	アンケート結果送付	小川
7月	アンケート結果送付	津田
8月	中止	小川
9月18日	「街歩きの達人ガイドであるいて新発見」11月に向けた事前学習	津田
10月	3回に分けて実施 10/8. 10/13. 10/16 「With コロナの今、そしてこれから・・・自分の地域も元気で過ごす為の情報共有」	小川
11月6日	「街歩きの達人ガイドであるいて新発見」に向けた事前学習	合同
1月	中止→電話アンケート：コロナ禍での近況・気になる人、包括に伝えたいこと・知りたい情報・オンラインでの対応可否、希望	小川
2月	中止→電話アンケート：コロナ禍での近況・気になる人、包括に伝えたいこと・知りたい情報・オンラインでの対応可否、希望	津田
3月	中止→アンケート結果送付	小川

○高齢者見守り事業

新型コロナウイルス感染拡大により、通常の形態での安否確認がコロナ禍において行いにくい状況であった為、見守り対象者においては、電話による状況確認をした。又それ以外の地域の高齢者把握がしにくくなっている為、熱中症対策も兼ねて、民生委員に連絡し、家の周りからの見回り（エアコンの有無、室外機が回っているかの確認）を依頼して、心配な人に対しては、感染対策をしながら直接訪問し、実態把握を行った。

○総合相談支援業務及び権利擁護事業について

センターの知名度が広まる中で、本人や家族だけでなく、地域のケアマネジャーからの相談や、医療機関・障害や他の制度にまたがる相談まであり、平均 36 件/月で推移している。新型コロナウイルス感染拡大により、緊急事態宣言が発令した月の前後は新規相談は少なくなっている傾向があった。延べ件数も前年度から比べると少なくはなっている。

具体的な総合相談の主な内容としては、認知症、ガン末期、精神疾患、多問題家族、8050問題、ゴミ屋敷問題、権利擁護（虐待・消費者被害）問題等であった。特に虐待の問題は根深く、すぐには解決とはいかない為、何度も市と中央包括とのコア会議を繰り返して虐待対応にあたってきた。虐待認定の考え方において、コア会議の在り方や意味において考えさせられた。引き続き検討していく必要がある課題とも言える。

他問題家族においても、同居家族が精神疾患を患っていて、医療を中断していたり、適切なサービスの利用や障害者手帳の申請をしていなかったりと、包括だけでは、対応しづらい事例も多くあり、障害支援課、保健所、権利擁護センターとも連携をして対応にあたった。

今年度の基幹型地域ケア会議は、「新しい生活様式で既存のネットワークが崩れた中、自分で自分の生命を守れない認知症高齢者を支援していく為に、私たちが今出来る事」をテーマとして行った。コロナ禍において、今までのネットワークでの対応が出来ない事もあり、自分の命を自分で守れない人（SOS が出せない人）に対してどのように対応していけば良いかの検討をおこなった。

見守りの現状を知り、各関係機関で行える支援内容や対応の共有、問題解決の為の方法、具体的に何が出来るか意見交換をして、今後の支援体制の構築や連携作りに役立つように取り組んだ。

○包括的・継続的ケアマネジメント業務について

今年度は新型コロナウイルス感染予防のため、従来の研修形態がとれず、研修の在り方について市の方針を確認したり、リモートの準備に時間がかかり、前半は予定していた企画ができなかった。その後ほとんどが Web での研修となり、後半に集中して行われることになった。リモート研修を少しでも楽しくできるよう工夫するのもこれまでになかった時間と手間がかかったが、地域のケアマネジャーに対しての個別支援や困難事例に対する指導助言をはじめ、多職種との連携、ケアマネジャー同士の関係作りに役立つ研修の企画と運営を行った。

【全体研修】市内の在勤ケアマネジャーを対象とした研修

日程	テーマ	講師
10月01日	小平市ケアプラン研修 「リ・アセスメント支援シート書き方研修」	中央包括 荒井氏
10月16日	小平市ケアプラン研修 「高めよう！ケアマネジャーの相談援助力」	ケアタウン総合研究所 高室重成 氏
11月06日	小平市ケアプラン研修	主任ケアマネ
11月12日	小平市ケアプラン研修 「アセスメントに生かすコミュニケーション力」	ケアタウン総合研究所 高室重成 氏
11月20日	小平市ケアプラン研修	主任ケアマネ
11月26日	「共有しよう！考えよう！ケアマネの業務範囲について」	小平ケアマネ連絡会
12月18日	ケアマネ交流会 「権利擁護ってなに？」	中央東圏域 東圏域包括支援センター
令和3年 2月2日	ケアマネ交流会 「多問題ケースの家族支援について考える」	中央西圏域 西圏域
令和3年 2月24日	「在宅医療を支える服薬支援」 ～本人らしい支援につなげるために～	三洋薬局 薬剤師 福田早苗 氏

【主任ケアマネ対象：市内在勤の主マネ対象・指導的役割を担うために必要な知識、技術を学ぶ】

8月21日	ファシリテーション研修	埼玉県立大学 准教授 柴山 志穂美 氏
9月18日	ファシリテーション研修	埼玉県立大学 准教授 柴山 志穂美 氏

*研修の形態がほぼ Web での開催となったが、Web の環境が整わなかったり、方法がわからなかったりで、混乱もあり Web のための研修も行った。また今年度から開始する予定の、主任ケアマネ達で進めるケアプラン研修の準備会は来年度に延期された。主任ケアマネ部会は、臨時会議を含めて8回あり、新型コロナウイルスに対してのアンケート調査も行った。

○介護予防ケアマネジメント業務・第1号介護予防支援事業について

概ね自前ケースが平均340件と委託ケースは平均106件と推移している。委託事業所は横ばい傾向で、要支援のケースを受け持ってくれる事業所は少数であり、委託する事に苦勞を要した。

○家族介護教室においては、地域のニーズや課題を勘案しつつ開催した。

日程	テーマ	講師
9月24日	在宅療養って何だろう・通院できなくなったらどうするの。	包括職員
10月15日	認知症サポーター養成講座（割り当て分）	包括職員
3月17日	ストレスと睡眠の関係、介護者・高齢者の睡眠ケアとこれだけは知ってほしい生活習慣	東洋羽毛工業株式会社・睡眠健康指導士： 梅田健次氏

○地域に発信しているものについて

●市民向けに新型コロナウイルス感染拡大防止に伴い、外出を控えている高齢者や、介護保険サービスの利用を自粛している高齢者向けに、介護予防のために実施したこと。

・はつらつ暦（体操スタンプカード）を作成し、皆が離れていても同じ時間に同じ内容で体操をし、地域につながる事を目的として配布した。スタンプカードはカレンダー様式で、（TV体操やいきらく体操）をしたら各自でチェックしてもらうものである。（感染が終息した暁には、はつらつ暦を参考にしながら、この難局をどう乗り切ったかを話し合う様にしていく事を想定し、自宅での定期的な体操の促しをおこなった。

・第2層協議会のメンバーが地域住民に声をかけて実現した小川西町応援メッセージを記入してもらい、当施設の周りに掲示を行った。

・小川西町ウォーキングラリー（2ルート作成）を作って、見守りボランティアやサロンに来ていた方、その他、対象になりそうな方に配布した。ウォーキングラリーのチェックポイントを10ヵ所設定しそこで体操をしてウォーキングをするという内容。お互いに顔を知らなくても行き会った際に言葉を交わしたりして、つながりが出来る一助にもらった。

○行事関係で地域に発信しているものについて

認知症カフェ（おれんじカフェ小川）は予定していたが、緊急事態宣言発令等により当施設の利用が出来ない為、公民館や公共施設で実施した。その関係も影響し4回の実施に留まったが、電話で生活状況の確認をして対象者の把握を行った

一緒に作るおやつ作りは、感染対策の為出来なかった。その代わりに、体操や脳トレを中心にリーダーの協力でおこなった。

サロンは中止。今後、コロナ禍においての行事の在り方をさらに考察していく事が課題として残る。

介護予防講座は、榊ブリヂストンのインストラクターに月1回依頼していたが、これも同様にコロナ禍で中止となる事が多かった。年度の後半は、2つのグループに分けて時間を短くし、回数増やし、感染対策に努めながら実施した。

中宿地域センターでは、4回の実施、学園西町地域センターでは5回実施した。

今年度で、包括が行う介護予防講座は終了してしまう関係で、体操を行う自主グループの立ち上げを応援していく為、フレトレ講座を介護予防推進員と共に行った。今後も介護予防の活動を広めると共にサポートをしていく。又、元気アップ測定会においては、参加者の健康チェックも実施した。

○認知症相談会（物忘れ相談会）・もの忘れチェック会について

国立精神神経医療研究センター病院の医師や中央包括の認知症コーディネーターと共に実施し早期に専門医に相談できる場として開催できた。ただし、感染対策の医師はリモートでの出席となった。参加された方は早期に発見でき専門医に受診する事が出来た。

もの忘れチェック会は、新型コロナ感染の拡大の為、中止とした。

日程	テーマ
7月14日	物忘れ相談会：4名
1月	もの忘れチェック会中止

年度の後半においては、オンライン研修が整い始めたこともあり、医療と介護との多職種連携事業（研修）やも含め、外部諸団体の会議（全国社会福祉協議会の各種委員会や東京都高齢者福祉部会の各種委員会）にも参加し、有益な情報収集を行う事ができた。

その他、次年度においてもオンライン研修を取り入れながら、個々の研修ニーズや課題を把握し、センター職員各々のスキルアップを更に進めて行きながら、小川ホームが地域の中核機関として近隣住民から信頼され、必要不可欠な存在として機能し続けて行きたい。

1. ケアプラン作成件数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月
件数	439	467	458	442	439	452	438
内委託	104	112	117	106	102	102	105
月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	※R1年度
件数	450	449	450	440	437	5,361	5,620
内委託	108	107	110	105	97	1,275	1,389

2. 要介護度分類

	～59歳		60～64		65～69		70～74		75～79		80～84		85～89		90～		合計		
	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	男	女	計
事業	/	/	/	/	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	1	0	3	3
支援1	2	0	0	0	2	1	4	8	7	24	6	29	14	43	7	19	42	124	166
支援2	2	1	2	0	4	7	11	10	11	20	7	48	21	66	13	45	71	197	268
合計	4	1	2	0	6	8	15	18	18	44	13	78	35	109	20	66	113	325	437

令和3年3月31日現在

相談実績

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
	当月相談者数	222	196	253	288	260	305	417	459	353	343	378	412	3886	
内 当月 訳 月	新規相談者	27	16	34	33	29	41	45	45	27	41	42	42	422	
	継続相談者	195	180	219	255	231	264	372	414	326	302	336	370	3464	
相談 内 訳	自立支援サービス	給食サービス	0	1	3	4	4	18	11	12	10	12	1	17	93
		住宅改修	2	1	0	0	2	0	3	4	1	0	2	5	20
		福祉用具	0	0	0	0	2	0	0	3	0	0	0	0	5
		緊急通報・火災安全システム	0	1	3	0	3	3	1	1	1	1	0	2	13
		おむつ支給等事業	0	0	0	0	1	0	2	0	0	1	0	0	4
		高齢者見守り事業	14	9	18	7	9	25	14	15	23	15	6	7	162
		その他自立支援サービス等	3	1	5	2	3	2	3	6	4	1	3	2	35
	介護保険	施設サービス	18	6	21	20	20	18	24	37	25	30	21	29	269
		在宅サービス	111	112	118	117	105	150	216	241	168	202	220	220	1980
		地域密着サービス	0	3	6	5	1	3	4	10	7	3	11	4	57
		ケアマネ・ケアプランの相談	42	51	30	48	33	44	96	100	46	59	69	74	692
		申請等の相談	44	29	41	58	51	58	81	71	60	69	73	88	723
	介護・生活支援	訪問型サービス	1	0	0	1	0	1	2	0	2	3	3	0	13
		通所型サービス	3	0	3	9	9	0	11	1	0	1	0	1	38
	予一般介護	ADL・IADLに関する相談	16	13	0	4	6	2	3	0	1	2	9	15	71
		社会参加に関する相談	10	4	7	5	19	6	3	3	3	3	11	3	77
	認知症に関する相談	症状・生活に関する相談	12	21	42	30	18	31	30	66	39	30	32	40	391
		受診・治療・服薬に関する相談	4	7	14	15	3	13	12	34	10	15	7	22	156
		徘徊に関する相談	1	3	3	2	0	0	1	3	0	0	0	4	18
		上記以外の相談	1	3	5	10	0	9	2	2	1	3	1	4	41
権利擁護	地域福祉権利擁護	0	3	0	8	6	3	7	6	6	5	0	4	48	
	成年後見	2	2	11	13	13	8	15	7	16	6	11	10	114	
	高齢者虐待	7	6	2	1	3	0	7	16	16	15	14	8	95	
	消費者相談	2	2	0	0	0	0	3	0	4	4	0	0	15	
その他	苦情	0	0	1	0	0	1	2	0	0	0	0	1	5	
	安否確認・緊急対応	13	2	2	11	9	9	7	10	8	4	11	12	98	
	住環境に関する相談	0	2	3	3	8	5	10	14	5	13	7	2	72	
	生活困窮者に関する相談	4	2	1	2	3	1	4	5	1	4	10	3	40	

	緊急医療情報キットに関する相談	2	0	0	0	0	1	1	2	1	4	3	2	16
	医療関係	26	18	16	13	35	30	38	54	51	70	56	61	468
	他制度の相談	1	16	8	7	10	13	27	11	12	21	22	4	152
	介護者自身(介護疲れ、介護離職)に関する相談	2	2	7	1	3	3	4	7	6	17	4	4	60
	上記以外の相談	2	6	7	6	7	23	6	10	10	11	15	10	113

相談件数 (件)		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間	
予防給付	要支援1	予防ケアプラン作成	67	73	71	64	72	71	69	67	62	65	66	66	813
		予防ケアプラン作成委託	12	14	18	17	16	16	16	15	16	18	17	16	191
		ケアプラン作成委託事業者数 (3月31日現在の数)	12	14	17	15	16	15	16	15	16	18	17	16	187
	要支援2	予防ケアプラン作成	124	125	117	123	121	123	120	123	128	128	123	132	1487
		予防ケアプラン作成委託	53	53	55	48	47	44	43	44	42	42	39	38	548
		ケアプラン作成委託事業者数 (3月現在)	46	53	49	46	43	40	39	38	35	37	33	33	492
セルフケアプラン作成件数		2	3	2	0	2	0	1	1	0	1	0	1	13	
介護予防日常生活支援事業	事業対象者	ケアプランA	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業作成委託事業者 (3月現在)	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	要支援1	ケアプランA	75	80	77	76	72	80	72	72	70	65	63	64	866
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	18	23	19	17	18	18	20	21	22	22	22	17	237
		総合事業作成委託事業者 (3月現在)	18	23	19	17	18	17	19	20	22	22	22	17	234
	要支援2	ケアプランA	66	74	73	70	69	73	69	77	79	79	80	75	884
		ケアプランB	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		ケアプランC	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
		総合事業ケアプラン作成・委託	21	22	25	24	21	24	26	28	27	28	27	26	229
		総合事業作成委託事業者 (3月現在)	20	21	18	24	20	21	23	25	24	26	23	22	267

ケアマネ業務	事業対象者	1	1	3	5	6	1	4	7	3	2	0	2	35
	要支援1	218	124	178	201	199	210	300	211	207	200	188	244	2480
	要支援2	7	13	13	4	13	27	26	23	14	29	27	15	3763
	申請中・退院調整等	7	13	13	4	13	27	26	23	14	29	27	15	211
	サービス担当者会議・ケース会議	9	10	17	12	31	21	24	22	11	10	16	32	215
介護保険申請件数		48	47	63	66	57	67	69	53	54	61	64	67	716
事業対象者 基本チェックリスト実施		0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	2
実態把握に関する対応		0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	21	56	77
包括的・継続的ケア マネジメント事業	ケアプラン作成指導・ 個別指導・相談	6	11	0	5	8	7	12	20	13	5	6	6	99
	困難事例への指導助言	7	3	9	7	9	10	21	11	16	18	25	11	147
	サービス担当者会議・ ケース会議	0	0	1	1	1	2	4	1	0	1	0	0	11
地域ケア会議	地域ケア会議 <個別ケース検討>	0	0	0	0	1	2	0	0	0	4	0	0	7
	地域ケア推進会議[圏域 内テーマ設定会議]	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1
	地域ケア推進会議[第2 層生活支援体制整備事業 協議会]	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	3

この事業報告書は原本と相違ないことを証明します。

令和3年6月18日

東京都小平市小川西町2-35-2

社会福祉法人緑友会

理事長 菅野徹夫